

平成 21 年度  
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園  
埼玉純真短期大学

## 「平成21年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

平成21年度は埼玉純真短期大学にとりまして、いろいろな意味で記念すべき年でした。

その中でも最も記念すべきことは、「財団法人短期大学基準協会」による評価で適格と認定をされたことです。「短期大学教育の継続的な質の保証を図り、(中略) 広く社会の理解と支持を得ることを目的」とする短大基準協会の認証評価で適格認定されたことは、学園訓である「気品・知性・奉仕」のもと、本学の教育と運営が適正に実行されているとされたからです。

次に、地域コミュニティに根ざした大学を標榜し、「埼玉純真短期大学外部評価委員会」を今年度から設置したことです。目的は、地域の第三者から評価を受け、本学の教育・研究と運営にいたる全般に亘って意見を伺い、その結果を反映させた改善・改革に努め、さらなる充実と発展を目指すためです。委員会委員には、羽生市教育長・近隣の高等学校長、市内の教育・保育関係者および本学の保護者代表者と同窓会代表者を委嘱しました。

また、同窓会においても、福田庸之助理事長はじめ開学時からの先生方や卒業生も多く参加して、「秋桜会発足25周年記念パーティ」を開催しました。今回は第1回でしたが、今後、同窓会活動が大学との共同で、さらに一層活発になっていくことが期待できます。

このような新規の事業の一方では、乳幼児保育学科第二部学生が最後の卒業式を迎え、文部科学省委託事業『(軽度) 発達障害』幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラムが、3年間の活動を終了することとなりました。また、状況の変化に伴い「教員免許更新講習」の実施も見送りを余儀なくされました。

このように保育・教育系短期大学としての特色を活かし努力して参りました結果、本学も地域コミュニティの大学としての位置づけが定着し始め、数年前に起こったさまざまな憶測もほぼ払拭されたものと感じております。これも、このような風評は一朝一夕に解消されることはないが、「卒業生や在学生のためにも埼玉純真短期大学を復活させる」と、教職員が気持ちを一つにして、地味で即効性はないかもしれないが、大学としてのプライドを保ち、本来あるべき方法、つまり教育と研究を堅実に実行し、地域社会に貢献をするという、地道な方法で信頼回復へ取り組んだ結果であると思っております。

このことこそが、本学園創設者福田昌子先生の建学の精神「気品・知性・奉仕」であり、「学校法人純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする」として開学した本学本来の姿勢を教職員自らが具体化しているものだと考えております。

これまでの困難は、特色ある短期大学として、より一層飛躍するために力を蓄える時間を与えられたとも、新たな時代への旅立ちに際して、これまでを振り返り、未来を展望する機会を与えられたものとも解釈しております。正に今がその時で、教職員一同が本学の復活という直近の目標、そして、更なる発展という将来の目標に向けて積極的に取組んで、「学生を中心においた教育」創りに邁進していることに誇りを感じております。

本報告書は、建学の精神と教育理念や目標に照らし合わせて、自らの位置を再確認し、将来の方向を明確にするために、全教職員がそれぞれに役割を分担し作成しました。

本報告書作成に協力していただいた本学全教職員に心より感謝いたします。

平成22年5月

埼玉純真短期大学  
学長 藤田 利久

# 平成 21 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 21 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

## I 本学の概要

1	沿革と建学の理念	1
	(1) 沿革	
	① 学園の設立と沿革 ② 本学の創立と沿革	
	(2) 建学の理念	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	教育方針と特色	4
	(1) 教育方針	
	(2) こども学科	
	(3) 乳幼児保育学科第二部	
	(4) 成果と課題 (点検・評価)	
3	組織と構成	7
	(1) 運営組織	
	① 運営組織 ② 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 学務分掌	
	① 役職 ② 全学的な委員会の委員長 ③ 全学的な委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員	
	⑥ 図書館職員 ⑦ 用務員 ⑧ 成果と課題 (点検・評価)	
	(3) 入学定員及び学生数	
4	学事日程	11
	(1) 学事日程	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	

## II 入試と広報

1	入試	14
	(1) 組織と運営	
	① 入試に関する組織 ② 入試業務	
	(2) 平成 22 年度入試の特徴	
	① 入試の改善点 ② 入試の特徴	
	(3) 平成 22 年度入試結果	
	(4) 募集要項	
	① 募集要項の形式 ② 選抜方法 ③ 入試日程	
	(5) 成果と課題 (点検・評価)	

2	広報	19
	(1) 組織と運営	
	(2) オープンキャンパス	
	① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(3) その他の広報活動	
	① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Web・Site への掲載	
	④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ	
	(4) 成果と課題 (点検・評価)	

### Ⅲ 教育活動

1	教育課程	28
	(1) 教育課程の編成	
	(2) 学科・専攻の教育課程	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	時間割編成と履修指導	29
	(1) 時間割編成	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 履修指導	
	① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)	
3	授業実施状況	30
	(1) 授業科目の履修者	
	① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 授業の開講・休講及び補講の状況	
	① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)	
	(3) 授業履修者の問題状況	
	① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数	
	⑤ 成果と課題 (点検・評価)	
	(4) 免許状・資格取得状況	
	① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数	
	③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(5) 教育実習・保育実習・介護等体験	
	① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(6) 授業内容と教育方法の工夫・研究	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果	
	① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)	

## IV 学生生活

1	学生の動向	48
	(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況	
	① 平成19年度入学生 ② 平成20年度入学生 ③ 平成21年度入学生	
	(2) 学生の動向	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
	(3) 成果と課題(点検・評価)	
2	クラス担任制	50
	(1) こども学科	
	(2) 乳幼児保育学科第二部	
	(3) 成果と課題(点検・評価)	
3	学外における研修	51
	(1) 実施概要	
	(2) 成果と課題(点検・評価)	
4	課外活動	53
	(1) 学生会	
	(2) 学生会主催行事	
	① 学生会オリエンテーション ② スポーツ大会 ③ 純真祭	
	(3) クラブ活動・同好会活動	
	(4) 研修活動	
	① リーダー研修	
	(5) 成果と課題(点検・評価)	
5	学生生活への配慮・支援	56
	(1) 奨学金	
	(2) 健康管理	
	(3) 保険制度	
	(4) 学生専用アパート	
	(5) 通学の状況	
	(6) 学生相談室	
	(7) 成果と課題(点検・評価)	

## V 就職と進学

1	就職	60
	(1) 就職指導	
	① 就職委員会の基本方針 ② 平成21年度年間就職指導計画 ③ 学科別の就職指導	
	④ 就職関連諸会合への参加	
	(2) 就職状況	

	① 就職内定状況 ② 就職内定先等内訳及び内定先一覧	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	進学	63
	(1) 編入学	
	(2) その他の進学	
	(3) 成果と課題 (点検・報告)	
3	卒業生への支援	63

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

1	研究活動	65
	(1) 研究活動の概要	
	(2) 専任教員の研究業績	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
	(3) 専任教員の所属学会	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
2	社会的活動	68
	(1) 講師・助言者等の実施状況	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
	(2) 専任教員の諸団体への所属状況	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
	(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況	
	① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部	
3	成果と課題 (点検・評価)	72

## VII 図書館

1	図書館の基本方針	73
2	組織と運営	73
3	施設・設備及び情報サービス	74
	(1) 施設・設備	
	(2) 情報サービス	
	① レファレンス・サービス ② 館外貸出及びコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用	
4	所蔵点数と年間受入状況	76
	(1) 所蔵点数	
	① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数	
	(2) 年間受入状況	
5	利用状況	77
	(1) 入館者数	

(2) 館外貸出	
(3) その他の業務	
① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用	
6 研究紀要	78
(1) 埼玉純真短期大学研究論文集	
① 第2号 ② 第3号	
7 成果と課題（点検・評価）	79

## VIII 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積	80
(1) 概要	
(2) 成果と課題（点検・評価）	
2 施設及び設備	81
(1) 概要	
(2) 保守・管理体制	
(3) 成果と課題（点検・評価）	
3 学内見取図	83

## IX 教授会・委員会等

1 教授会	87
(1) 教授会	
① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題（点検・評価）	
(2) 人事	
① 採用 ② 退職	
(3) 成果と課題（点検・評価）	
2 委員会	92
(1) 教務委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
(2) 学生委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
(3) 図書委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
(4) 実習委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
(5) 就職委員会	
① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
(6) 社会人の学び直し委員会	

- ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (7) 編集委員会
  - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (8) 入試広報委員会
  - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (9) FD 委員会 (自己点検・評価委員会を含む)
  - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題 (点検・評価)

## X 事務組織

- 1 業務分掌 ..... 102
  - (1) 事務組織の業務分掌
  - (2) 事務分掌
- 2 成果と課題 (点検・評価) ..... 104

## X I 財政

- 1 財政の状況 ..... 105
  - (1) 消費収支決算の状況
    - ① 消費収入 ② 消費支出
  - (2) 貸借対照表の現状
  - (3) 財務比率
    - ① 固定比率 ② 固定長期適合率 ③ 流動比率 ④ 人件費比率 ⑤消費支出比率 ⑥ 消費収支比率
- 2 成果と課題 (点検・評価) ..... 114

## X II 同窓会 (秋桜会)

- 1 活動状況 ..... 116
  - (1) 役員組織
  - (2) 活動状況
- 2 成果と課題 (点検・評価) ..... 117



# I 本学の概要

## 1 沿革と建学の理念

### (1) 沿革

#### ① 学園の設立と沿革

26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた福田昌子女史は、昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動した。

この時期、すでに戦後の混乱の中、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進むなど、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品』『知性』『奉仕』の精神が備わった女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年2月、学校法人純真女子学園を創立した。同年4月、「純真な女性の姿」という意味の『純真』を校名に付し、純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子高等教育が開始された。

#### ○ 学校法人純真学園の沿革

年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立
昭和31年4月	純真女子高等学校を開校
昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学 福田昌子、初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学 福田昌子、初代学長就任
昭和51年1月	福田敏南、学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学附属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科）開学 福田敏南、初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助、学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称

## ② 本学の創立と沿革

本学は、昭和 58 年 4 月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の 3 学科をもって現在地に開学した。

福田昌子女史が昭和 31 年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づき女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員 100 名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同 50 名・幼児教育学専攻：同 50 名）・幼児教育学科第二部（同 50 名）の 3 学科（うち 1 学科は第二部 3 年課程）2 専攻であった。第 1 期入学生は、英語学科 62 名・児童教育学科初等教育学専攻 45 名・同幼児教育学専攻 58 名・幼児教育学科第二部 42 名の計 207 名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起これ、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成 18 年の英語コミュニケーション学科・平成 19 年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・教育の専門短大」を志向し、文部科学省の委託事業や教員免許状更新講習など特色を活かした取り組みに拍車がかかり、「こども学科」の入学者も増加傾向を示している。

これらの本学復活に向けての取り組みは、財団法人短期大学基準協会による「認証評価」の実地調査においても高く評価された。

### ○ 埼玉純真短期大学の沿革

年月日	沿革
昭和 58 年 4 月 1 日	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南、初代学長に就任
昭和 60 年 10 月 1 日	体育館竣工
昭和 61 年 9 月 1 日	プール竣工
昭和 62 年 4 月 1 日	研究棟竣工
平成 16 年 4 月 1 日	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科 ・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成 17 年 4 月 1 日	入学定員を変更し、こども学科の専攻（こども学専攻 ・乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100 人→50 人 ・こども学科:100 人→150 人
平成 18 年 4 月 1 日	英語コミュニケーション学科募集停止
平成 19 年 4 月 1 日	埼玉純真短期大学に校名変更し、乳幼児保育学科第二部募集停止 藤田利久、第四代学長に就任
平成 19 年 8 月 1 日	文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
平成 20 年 3 月 31 日	英語コミュニケーション学科廃止
平成 20 年 8 月・11 月	「教員免許状更新制における更新予備講習(選択科目)」開講
平成 21 年 10 月 13 日	財団法人短期大学基準協会 第三者評価実地調査
平成 22 年 3 月 31 日	乳幼児保育学科第二部廃止

## (2) 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

### 第1章 総則

(目的及び使命)

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」では、「学術の理論及び応用を研究教授する」として「学校教育法」第83条に、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」と、同法第108条「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応させ、本学が職業型大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき・・・」として、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある女子職業人の育成を目指していることを示している。

このように、本学の設立目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる「純真」なる心をもって他の人々に対応できる「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

## (3) 成果と課題(点検・評価)

これまで、時代という追い風の中で順調に推移してきたなかで、教職員も特段の危機意識を持つことないままに学校運営がなされてきた。つまり、建学の精神を教育現場でどのように活かし、発展させていくべきか、育成する具体的学生像とは何か、などについて、綿密な点検と評価、そして検討と実践が必ずしも徹底していたとは言えなかった。

平成21年度は社会構造の変化に伴い、本学のあり方(教育内容・教育方法など含む)、そして大学教員のあり方や意識を時代に合わせた形に変えることから始め、この変化に迅速かつ適切に対応し、建学の精神に則った「専門職業人養成」にあたることを目標とした。

平成21年度には、全教職員が本学を復活・発展させようとする強い意識と体制ができ、建学の精神の原点に立戻って本学再建への意欲の高まりが実効として見えてきた。

そのひとつが、文部科学省より「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業や、「教員免許状更新制における更新予備講習」の実施に高い評価を得たことであった。

これをきっかけに本学は「保育・教育者養成機関」としての特色を活かし、学園訓、本学の教育目標をより具体化させて、教職員が一致協力して学生教育を更に充実させていく

ことへの自信ができた。少人数クラスの実現、「プレカレッジ」や「保護者会」など入学時から卒業時までの対応システムを作ることもできた。この延長線上で、地域への「学びの機会と場」の提供を質的にも量的にも、さらに充実したいと考えている。

## 2 教育方針と特色

### (1) 教育方針

本学の「教育方針」は「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

#### ○ 本学の教育方針

- ・相互に相協しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着きのある言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。
- ・現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。
- ・常に研鑽途にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を文章化し、具体化したものであり、本学園教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤となるのは「洗練された情操と知性」であること、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問や知識の探求と人間形成とが表裏一体の関係にあることを説いている。

つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」を中核的価値とする「純真な」人間性の基礎として、人間性を高める深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業やその他の実際生活に活かしていくことのできる能力を身に付けることが、本学の教育目標であると言える。

これを具現化するために、次の三点を養成目標として、教育活動に取り組んでいる。

- ・「気品」：人間としての豊かな感性や社会的文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた「よき社会人」の養成。
- ・「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と積極的な行動力をもった「よき職業人」の養成。
- ・「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、他者のために利害を気にすることなく、積極的に行動できる人間性豊かな「よき市民」の養成。

本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、学内に「学園訓」を掲示すると共に、学長はじめ教員がそれぞれに、入学式や卒業式、教職員会議、入学・進級オリエンテーションなどで、機会あるたびに伝え、在学生、入学希望者とその保護者、そして外部にも本学の大学案内パンフレット、ホームページなどでも「学園訓」と本学の「教育方針」を紹介し、多くの方々に理解されるよう努力している。

## (2) こども学科

こども学科には、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、それぞれが専門性を追求できるようにしている。両者に共通の教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者においては、小学校と幼稚園の連携、初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育を総合的に理解し、教員として教育現場に立てるよう教育理論と実践をバランス良く習得できるようにしている。

後者においては、保育所と幼稚園の相違を正確に理解しながら、子どもの発達理解と子どもの発達段階を踏まえた援助方法などの理論と実践を身につけた保育専門職の養成を目指した科目設置をしている。

この目的の実現のため教室内での授業はもとより、実習指導にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるようにきめ細かく丁寧に行われているところも本学科の特色のひとつである。

さらに、将来専門職者となる学生が自らの課題を授業で明確にするだけでなく、ボランティア参加など自主的な活動を通して、新たな課題を発見・検証し、それらを発展させていけるような指導にも心掛けている。

また、教育・保育に重要な絵本や幼児向け図書の積極的活用の基礎知識と技術を学べるようにと司書資格・司書教諭資格の課程も設けている。

特に即戦力となりうるように「こども学コース」では、少人数クラスで模擬授業、実践記録、授業研究など実践的な授業を多くとり入れているとともに、「乳幼児保育コース」でもできるかぎり事例をもとに理解を深められるような授業を展開している。

これらの知識や技術をより深く学んでみたい、小学校・幼稚園教諭一種免許状取得を目指したい、などと希望する学生には課外で四年制大学編入指導にも力を注いでいる。

## (3) 乳幼児保育学科第二部

乳幼児保育学科第二部は、職業人や家庭の主婦など一般社会人のため開設された幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が3年間で取得できる夜間開講の学科である。この学科も

社会の変化に伴い、入学希望者が減少したため、平成 19 年度入学生をもって募集停止することとした。

この学科では、こども学科乳幼児保育コースと同様に、教育・保育に関する理論的知識と技能を習得できるように科目配置をしている。

現在の学生数も 2・3 学年合わせても 20 名に満たないため、必然的に少人数クラスの授業となり、学生への配慮も十分に行き届いた授業展開ができるところが大きな特徴である。社会人であることを前提に、教員が一方的に講義するだけでなく、学生が自らの育児や保育の経験の中から問題を提起し、質疑応答形式で行う機会も多くとり入れられることもこの学科の特徴のひとつである。夜間 2 コマの授業という時間的な制約を受けながらも、目的意識も高く保育者としての資質を開花させ、専門職への道を歩んでいる。

第二部の学生は学習面や生活面においても、こども学科の覚醒とは違った様々な悩みや問題を抱えている場合が多く、これらに対する対応如何が就学意欲に大きな影響を与えるため、学生へは慎重かつ丁寧に対応している。

#### (4) 成果と課題 (点検・評価)

授業実施については、「こども学科」と「乳幼児教育学科第二部」という養成目的を同じくする 2 学科であるため、授業科目や担当教員においてもほぼ同様な配置をし、授業実施においても質の均一性が保たれている。また、実習や就職指導においても両学科共通に担当実施するため、実習でもあまり問題が発生しないこと、就職においてはほぼ希望どおりとなったなど、全体的には順調に教育活動が行えている点は評価できる。

一方、今後、早急に対処と改善を必要とする問題もある。まずは学生数の減少である。それに伴い「こども学科」のコース別授業が次第に成立しがたい状況になってきたことである。つぎに、近年どこの大学でも目立ち始めたことであるが、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めなくなる学生がいることである。

前者においては学生数を増やすための方策は本学の問題として解決していくが、後者においては、これが実習と資格取得、さらには就職活動や就職後の時点での問題として発生し、学生自身が所期の目的を達成することが困難な状況が生まれ始めたことである。これは大学側だけの問題でなく、学生の将来の問題として重大に受け止めている。

この状況や対処については、学生指導の項目に述べるが、今後、より真剣に取り組んでいかなければならない問題である。

なお、本年度の卒業生をもって、「乳幼児教育学科第二部」は廃科となり、明年度からは「こども学科」単科の短期大学としての特色をより一層活かした学科運営をしていかなければならない。

### 3 組織と構成

#### (1) 運営組織

##### ① 運営組織

平成 21 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科	乳幼児保育学科第二部
藤田 利久・入江 良英・牛込 彰彦・井筒 紫乃・木許 隆・ 青木 万里・安部 孝・安倍 大輔・草信 和世・裊 珉卿・ 浦 由希子 村田 文生 (特任) 高木 香織 (休職)  以上 13 名	小澤 和恵  以上 1 名

教授会は、学則第 8 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これにオブザーバーとして事務長・各セクションの責任者（事務職員）も同席し、教員と事務局職員の意思疎通が図れ、業務がよりスムーズに遂行できるようにした。

それぞれの案件を検討・処理する委員会として、下記の表のとおり設けた。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。また、各委員会には、原則として、学長と事務長も出席することとした。

また、教授会へ提出する議題の整理・審議事項の事前調整・その他の諸問題の情報共有を図るために「部長・委員長会」を設け、学長・教務部長・学生部長・図書館長に各委員長と事務長で連絡調整会議を原則的に教授会の前週に開催した。

○ 委員会一覧

教務委員会・学生委員会・図書委員会・実習委員会・就職委員会・社会人の学び直し委員会・編集委員会・入試広報委員会・FD委員会（自己点検・評価委員会を含む）
--

##### ② 成果と課題（点検・評価）

教員組織については、「教員の職位と年齢のバランスも考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない」との考え方にに基づき教員の新規採用を含めて実施した。このことにより、職位と年齢そして科目担当のバランスもさらに一層理想的なものとなった。

教授会については、学長が議長となり原則的に毎月 1 回（夏季休業中の 8 月は開催しない）開催された。各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承されるという状況であった。

## I 本学の概要

質問や意見を求められる場合もあったが、それらは確認するといった意味・内容であった。昨年度に比べれば、感情的な対立ではなく、常識ある大学人としての議論も出始め、教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生対応などで日常的に繁忙を極める委員会と比較的平静な委員会とに分かれた。すべての教員が三委員会程度の委員を兼務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなった。このような状況でも、各委員会では委員長をリーダーとして、各委員がそれをサポートする形で、それらの業務を分担し的確に対処していった。これは、多くの委員会が、定例以外に適宜、臨時会議などを開催し情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営され、充分機能したと言える。

ただ、あまりに業務が集中し、個別化したために業務遂行が予定どおりに進まない委員会、反対に日常的業務がなく、積極的活動の見えなかった委員会もあったことは、次年度への反省事項である。

### (2) 学務分掌

#### ① 役職

こども学科	乳幼児保育学科第二部
教授：入江 良英・牛込 彰彦・藤田 利久（学長） 准教授：井筒 紫乃・木許 隆 専任講師：青木 万里・安部 孝・安倍 大輔・草信 和世・ 褒 珉卿 助教：浦 由希子・高木 香織 特任教授：村田 文生	准教授：小澤 和恵

#### ② 全学的な委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	井筒 紫乃
図書委員会	牛込 彰彦
実習委員会	牛込 彰彦
就職委員会	安部 孝
社会人の学び直し委員会	入江 良英
編集委員会	木許 隆
入試広報委員会	小澤 和恵
FD委員会	草信 和世



### ③ 全学的な委員会の委員

委員会名	教 員 名
教務委員会	小澤 和恵・安部 孝・浦 由希子
学生委員会	井筒 紫乃・木許 隆・青木 万里・安倍 大輔・草信 和世
図書委員会	牛込 彰彦・青木 万里・裏 珉卿・浦 由希子
実習委員会	牛込 彰彦・青木 万里・安部 孝・安倍 大輔・草信 和世・裏 珉卿・浦 由希子
就職委員会	安部 孝・入江 良英・牛込 彰彦・安倍 大輔・草信 和世・浦 由希子
社会人の学び直し委員会	入江 良英・木許 隆
編集委員会	木許 隆・牛込 彰彦・井筒 紫乃・浦 由希子
入試広報委員会	小澤 和恵・井筒 紫乃・安部 孝・安倍 大輔
FD委員会	草信 和世・牛込 彰彦・小澤 和恵・木許 隆

### ④ クラス担任

#### ○ こども学科

クラス	1年	2年
A組	安倍 大輔	木許 隆
B組	小澤 和恵	牛込 彰彦
C組	安部 孝	浦 由希子

#### ○ 乳幼児保育学科第二部

クラス	3年
乳幼児保育学科第二部	井筒 紫乃

### ⑤ 事務職員

本学の事務職員は、専任職員9名、嘱託職員1名で構成され、教務・学生・就職・実習・総務・経理・入試広報をそれぞれに担当している。

担 当	氏 名
事務長	濱野 哲也
事務長代理（入試広報課）	秋山 知世
学生課主任	田中 淳一
教務課	橋本 早也佳
教務課	相馬 萌
教務課実習係	原田 智鶴
学生課就職係	奥貫 慶一郎
経理課	新島 由子
総務課	永田 朗子

総務担当	佐藤 猛
------	------

### ⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、専任司書 1 名、非常勤司書 1 名で構成されている。

図書館司書（専任）	中村 周
図書館司書（非常勤）	吉田 伊都子

### ⑦ 用務員

本学の用務員は、専任職員 2 名で構成されている。

用務員	井上 周一
用務員	萩原 信一

### ⑧ 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度は人員の入れ替えと縮小が行われた本学の組織ではあったが、少ない教職員でも学生の教育や活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・就職委員会・実習委員会・入試委員会・図書委員会・学び直し委員会に、本学外部評価員による外部評価と短大基準協会による第三者評価の準備のため、FD 委員会（自己点検を含む）と編集委員会の二委員会をより充実させた。事務局においても各セクションに最小人数と思われる程の配置となったが、十分とは言えないまでも、特別な支障をきたすことにはならなかった。

教員は平成 21 年度の教員の出勤日が週 4 日（研究日 1 日）であるため、委員会活動や教育活動と学生指導にあたる一方、個人の研究活動にも十分な時間をかけられる状況が確保できた。各組織の担当教職員は責任感を持って自己の職務を遂行する雰囲気があり、さらに、公開講座や近隣の学校の要請に応じて地域教育活動援助など新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし一方、教員も職員においても、個々人の業務における慣例的スタイルや考え方の影響も依然として色濃く残っていたことは改善の必要があると思われる。それには、個々の経験を集約し、広い視野に立って考え、新たな考え方で、新しい時代環境に適した学生指導や各種活動に活かしていくことができる運営組織やスタイルの確立が求められるところである。

平成 21 年度は短大基準協会による「第三者評価」を受けた記念すべき年であった。このことにより、本学の「建学の精神」と「教育方針」を教職員が再確認をし、個人としてはもちろん組織として、これに則った大学運営、委員会活動等をしていかなければならないと、全教職員が改めて考え直す機会が与えられたことはたいへん素晴らしいことであったと考える。

I 本学の概要

(3) 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

(平成21年5月1日現在・単位：人)

学科・専攻		定員	1年	2年	3年	合計
こども学科	乳幼児保育コース	300	79	81	-	160
	こども学コース		2	7	-	9
乳幼児保育学科第二部		50	-	-	6	6
合計		350	81	88	6	175

4 平成21年度学事日程

(1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前期		後期	
日付	行事	日付	行事
平成21年		9月24日	後期授業開始
4月4日	平成21年度入学式	9月26日	AO入試予備面談
4月6・7・8・9・10日	1年生オリエンテーション	10月3日	第6回オープンキャンパス
4月7・8・9日	こども学科学外研修	10月5日～30日	小学校教育実習(こども学科2年)
4月9・10日	2年生オリエンテーション	10月10日	AO入試Ⅱ期
4月10日	健康診断	10月17日	第7回オープンキャンパス
4月13日	前期授業開始	10月18日～31日	幼稚園教育実習(こども学科乳幼児保育 コース2年・乳幼児保育学科第二部3年)
4月25・26日	第1回オープンキャンパス	10月31日	推薦入試Ⅰ期
5月9日	補講日	11月7日	補講日
5月14日	こども学科スポーツ大会	11月14日	AO入試予備面談
4月21日	自宅外通学生懇親会	11月22日	純真祭
5月16日	補講日	11月23日	片付け
5月16・17日	第2回オープンキャンパス	11月24・25日	振替休日
6月6日	AO入試予備面談	11月28日	AO入試予備面談
6月13日	補講日	12月5日	補講日
6月13・14日	AO入試予備面談	12月12日	AO入試Ⅲ期
6月13・14日	第3回オープンキャンパス	12月16日	自宅外通学生懇親会
6月20日	補講日	12月19日	推薦入試Ⅱ期・社会人入試Ⅰ期
5月25日	幼稚園教育実習(こども学科2年・		

## I 本学の概要

～6月6日	乳幼児保育学科第二部3年)	12月29日～	冬季休業
6月27日	補講日	平成22年1月3日	
7月11・12日	AO入試予備面談	1月4日	後期授業再開
7月11・12日	第4回オープンキャンパス	1月9日	補講日
7月18日	AO入試予備面談	1月16日	補講日
7月24日	1年生集中講義日	1月18日～22日	補講期間
7月24日	2・3年生実習補講日	1月25日～29日	後期試験
7月27日～30日	集中講義期間	1月29日	追再試験発表①
7月27日	保育所実習(こども学科2年・乳幼	1月30日	一般入試I期
～8月10日	児保育学科第二部3年)	2月～3月	施設実習(乳幼児保育コース1年)
8月3日～7日	オープンキャンパス・公開講座	2月1日	追再試験発表②
8月8日	AO入試予備面談	2月1日～4日	後期試験追再試及び補講期間
8月3日～27日	夏期休業	2月6日	表現発表会リハーサル
8月17日	創立記念日振替休日	2月7日	表現発表会
8月31日	前期授業再開	2月13日	AO入試予備面談
8月29日	AO入試予備面談	2月15日～26日	幼稚園教育実習(こども学コース1年)
9月5日	補講日	2月27日	一般入試II期・社会人入試II期
8月25日	補講期間	3月12日	卒業証書授与式予行
～9月4日		3月13日	第26回卒業証書授与式
9月7日～11日	前期試験	3月15日	AO入試予備面談
9月12・13日	AO入試予備面談	3月19日	AO入試IV期
9月12・13日	第5回オープンキャンパス		
9月14日～18日	前期試験追再試及び補講期間		
9月19日	AO入試I期		

### (2) 成果と課題(点検と評価)

授業コマ数15コマ以上を確保したうえで、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなったが、これも免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえよう。

学生に対する親の思いや大学と保護者の関係を密接にし、学生生活を意義あるものしたいという考えから、入学式と卒業式に保護者が列席しやすいよう、平成21年度においても土曜日に設定した。

新入生学外(合宿)研修を例年通りの施設で行いたいと準備を進めたが、4月の適切な時期の予約が難しく、入学式後、一日の学内オリエンテーションを行い、福島県の「国立磐梯青少年交流の家」で行った。2泊3日という日程で行ったので、オリエンテーションとしての研修の他、地域を学ぶ内容を取り入れることができた。

## I 本学の概要

補講実施については、補講期間以外に土曜日に補講日を設定しているが、平成 20 年度の反省を活かし、幼稚園実習や保育所実習の始まる直前の土曜日は避けて設定した。

授業コマ数 15 コマ以上を確保するために、次年度は補講日、定期試験期間、実習期間などの見直しと検討を行う必要があると考える。

## Ⅱ 入試と広報

### 1 入試

#### (1) 組織と運営

##### ① 入試に関する組織

###### (a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、各委員長を中心とした入試広報委員会によって審議した。

○ 入試広報委員会構成員

入試広報委員長・学長・教務部長・学生部長・図書館長・就職委員長・FD委員長 委員（教員）・事務長・入試広報事務担当者（書記）
---

###### (b) 入試問題作成担当

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。一般入試の問題作成については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当し、社会人入試の出題については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当した。

###### (c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と接見した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

##### ② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

○ 入試広報業務一覧

・入試の企画・運営

入試の種類の設定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成  
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送

・広報誌の作成

・広報活動

進学相談会・学校見学会（オープンキャンパスを含む）・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における  
模擬授業・公開講座などの企画・運営

## (2) 平成 22 年度入試の特徴

### ① 入試の改善点

推薦入試区分を指定校推薦入試、一般推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試の 3 区分に分けた。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。そして、推薦条件を「平成 22 年 3 月卒業見込み、及び平成 20 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者」とした。

また、AO 入試のエントリー期間を 4 期設定し、予備面談の回数を増やし受験のチャンスを増やした。

### ② 入試の特徴

#### (a) 入試の動向

指定校推薦入試、一般推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を 3 区分設定した。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成 22 年 3 月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

一般推薦入試は、2 回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成 22 年 3 月卒業見込み、及び平成 21 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、2 回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、一般推薦入試に準じている

一般入試は、2 回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、2 回実施している。社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文（800 字以上）と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

AO 入試は、4 期設定している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約 30～40 分程度の予備面談を行う。予備面談は、6 回のエントリー期間を設けている。面談時には、保護者、高等学校教員等が同伴することを認めている。そして、面談内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路・その他、優れた能力・活動への質問を行う。本試験を行う前に予備面談を行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

## II 入試と広報

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX等による問い合わせには応じていない。

### (b) 志願者の動向

○ 本学志願者の推移 (単位：人)

年 度	志願者数		
	英語コミュニケーション学科	こども学科	乳幼児保育学科第二部
平成 17 年度	12	183	20
平成 18 年度	8	192	20
平成 19 年度	—	173	6
平成 20 年度	—	97	—
平成 21 年度	—	86	—

### (3) 平成 22 年度入試結果

○ 入試結果一覧 (平成 22 年 3 月 31 日現在・単位：人)

学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
こども学科	97	97	96	94

### (4) 募集要項

#### ① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。また、今回より、アドミッションポリシーについて表記した。

#### ② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	予備面談	定員 (人)
推薦入試	指定校	○	○	○	—	—	40
	一般	○	○	○	—	—	35
	専門高校・総合学科等	○	○	○	—	—	15
入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	予備面談	定員 (人)
一般入試		—	○	○	「国語」 (古文・漢文 を除く)	—	30



## Ⅱ 入試と広報

社会人入試	—	○	○	作文 (800字)	—	若干
A0入試	—	○	○	—	○	25

### ③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		2009年10月5日(月) ～10月26日(月)	10月31日(土)	11月2日(月)	11月27日(金)
一般推薦入試	I期	2009年10月5日(月) ～10月26日(月)	10月31日(土)	11月2日(月)	11月27日(金)
	II期	2009年12月1日(火) ～12月16日(水)	12月19日(土)	12月21日(月)	1月15日(金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I期	2009年10月5日(月) ～10月26日(月)	10月31日(土)	11月2日(月)	11月27日(金)
	II期	2009年12月1日(火) ～12月16日(水)	12月19日(土)	12月21日(月)	1月15日(金)
一般入試	I期	2010年1月5日(火) ～1月25日(月)	1月30日(土)	2月1日(月)	2月26日(金)
	II期	2010年2月1日(月) ～2月22日(月)	2月27日(土)	3月1日(月)	3月19日(金)
社会人入試	I期	2009年12月1日(火) ～12月16日(水)	12月19日(土)	12月21日(月)	1月15日(金)
	II期	2010年2月1日(月) ～2月22日(月)	2月27日(土)	3月1日(月)	3月19日(金)

○ AO入試日程一覧

入試区分		エントリー期間	予備面談	出願期間	試験日	合格 発表日	入学手続 締切日
AO 入 試	I 期	2009年5月16日(土) ～6月12日(金)	6月6日(土) 6月13日(土) 6月14日(日)	9月1日(火) ～ 9月15日(火)	9月19日 (土)	9月24日 (木)	10月9日 (金)
		2009年6月13日(土) ～7月17日(金)	7月11日(土) 7月12日(日) 7月18日(土)				

## Ⅱ 入試と広報

	2009年7月18日(土) ～8月28日(金)	8月8日(土) 8月29日(土)				
Ⅱ 期	2009年8月29日(土) ～9月25日(金)	9月12日(土) 9月13日(日) 9月26日(土)	10月1日(木) ～ 10月7日(水)	10月10日 (土)	10月14日 (水)	10月30日 (金)
Ⅲ 期	2009年11月2日(月) ～11月27日(金)	11月14日(土) 11月28日(土)	12月1日(火) ～ 12月10日(木)	12月12日 (土)	12月17日 (木)	1月8日 (金)
Ⅳ 期	2010年2月8日(土) ～3月12日(金)	3月15日(月)	3月16日(火) ～ 3月18日(木)	3月19日 (金)	3月23日 (火)	3月19日 (金)

### (5) 成果と課題(点検・報告)

大学入試の基本方針は文部科学省より示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受けられるため、本学の入試形態に関しては極力わかりやすいものと考えている。

今年度入試では、こども学科こども学コースへの入学者の中には、大学や短期大学を卒業した後、小学校二種免許状の教員免許を取得したいとのことで、本学に入学した学生が複数名いた。短期大学での教員免許状は、小学校二種免許状しか取得できないが、昨今短期大学で教員免許状を取得できるところが数少なくなっている中では、特色の一つとしての扱う価値があるのではないかと、とうかがえる。

今後は、入試の時期や受験方法、手続き時期、奨学金制度、遠隔地からの受験生へ支援、等、他学と比較し対応していくこと必要があると思われる。

## 2 広報

### (1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

○ 広報活動一覧

・学校案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成  
 ・受験生や高等学校への窓口業務（学校案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）  
 と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣

### (2) オープンキャンパス

#### ① 日程と内容

平成 21 年度は、以下の日程で計 14 回のオープンキャンパスを実施した。

○ オープンキャンパス実施日程一覧

1 回目：4 月 25 日（土）・26 日（日） 2 回目：5 月 16 日（土）・17 日（日） 3 回目：6 月 13 日（土）・14 日（日）  
 4 回目：7 月 11 日（土）・12 日（日） 5 回目：8 月 29 日（土）・30 日（日） 6 回目：9 月 12 日（土）・13 日（日） 7  
 回目：10 月 3 日（土）・17 日（土）

内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第 1 回	4 月 25 日(土)	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 1 時間目：10：40～11：20 2 時間目：11：30～12：10 4/25（土）実施 A：読み聞かせを体験しよう B：音楽は爆発だ！～歌って踊って表現しよう～
	4 月 26 日(日)	
	9:30～受付開始	4/26(日)実施 A：音楽は爆発だ！～歌って踊って表現しよう～ B：レクリエーション入門～あたまとからだを動かそう～ C：音楽は爆発だ！～歌って踊って表現しよう～ 10：40～11：20 保護者懇談会 「このような学生を育てます」～教育理念「気品」「知性」「奉仕」
	10:00～14:00	
		3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）

Ⅱ 入試と広報

		* 食事終了後、自由解散
第 2 回	5 月 16 日(土)	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 1 時間目：10：50～11：30 2 時間目：11：40～12：20 5/16（土）実施 A：発達障害を知ろう B：音楽は爆発だ！～歌って踊って表現しよう～
	5 月 17 日(日)	10：50～11：30 保護者懇談会 「学生カウンセラーの立場から」 5/17(日)実施 10：50～11：30 特別講演 本学客員教授：浅井えり子先生 「私を育ててくれたものは」～オリンピック出場までの道のり～ 11：40～12：20 体験授業 A：ドキドキ・ワクワクピアノ講座 B：チャレンジ・ザ・ゲーム ～記録に挑戦～
	9:30～受付開始	
	10:00～14:00	11：40～12：20 保護者懇談会 「学生カウンセラーの立場から」 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学 * 食事終了後、自由解散
第 3 回	6 月 13 日(土)	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 1 時間目：10：40～11：20 2 時間目：11：30～12：10 6/13（土）実施 A：ドキドキ・ワクワクピアノ講座 B：沐浴実習
	6 月 14 日(日)	10:50～10：30 保護者懇談会 「資格・免許を取得するための実習とは」 6/14(日)実施 A：「私ってどんな人」 B：ドキドキ・ワクワクピアノ講座
	9:30～受付開始	
	10:00～14:00	10:50～10：30 保護者懇談会 「資格・免許を取得するための実習とは」 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散

Ⅱ 入試と広報

<p>第 4 回</p>	<p>7月11日(土)</p> <p>7月12日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 学生からのメッセージ                  2 開会：学科・入試説明等                  3 11：00～11：40 特別講演                  本学客員教授：浅井えり子先生                  「私の学生生活」                  4 体験授業 11:50～12：30                  7/11 (土) 実施                  A：共に楽しく音楽                  B：沐浴実習                  C：子どもの才能の発達について</p> <p>11:50～12：30 保護者懇談会                  「～今だから純真～」</p> <p>7/12(日)実施                  体験授業：1 時間目：11：00～11：40                  2 時間目:11:50～12：30                  A：音楽は爆発だ～歌って踊って表現しよう～                  B：いろいろなジャンケンで遊ぼう                  C：ブラインドウォークにチャレンジ                  D：発達障害について</p> <p>11:00～11：40 保護者懇談会                  「～今だから純真～」</p> <p>5 学食体験                  6 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）                  * 食事終了後、自由解散</p>
<p>第 5 回</p>	<p>8月29日(土)</p> <p>8月30日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート                  2 開会：学科・入試説明等                  3 体験授業                  1 時間目：11：00～11：40                  2 時間目：11：50～12：30                  8/29 (土) 実施                  A：沐浴実習                  B：「心の声」に耳を傾むけて</p> <p>11:00～11：40 保護者懇談会                  「就職について」                  ○11：45～14：00 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>8/30(日)実施                  A：発達障害を知ろう                  B：楽しい室内レクリエーション</p> <p>○10：30～14：00 ピアノ個人レッスン（1人：20分）                  11：00～11：40 保護者懇談会                  「就職について」                  4 学食体験                  5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ）                  * 食事終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

<p>第 6 回</p>	<p>9月12日(土)</p> <p>9月13日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート</p> <p>2 体験授業 1 時間目：10：30～11：10 2 時間目：11：20～12：00</p> <p>9/12(土)実施</p> <p>A：Junshin 幼稚園 ～作って遊ぼう～</p> <p>B：「心の声」に耳を傾けて</p> <p>10:30～11：10 保護者懇談会 「2年間の学生生活について」</p> <p>9/13(日)実施 開会：学科・入試説明等 体験授業 1 時間目：11：00～11：40 2 時間目：11：50～12：30</p> <p>A：子どもの運動発達 ～生まれてからかけっこができるまで～</p> <p>B：「心の声」に耳を傾けて</p> <p>11:00～11：40 保護者懇談会 「2年間の学生生活について」</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散</p>
<p>第 7 回</p>	<p>10月3日(土)</p> <p>10月17日(土)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～14:00</p>	<p>1 学生からのメッセージ</p> <p>2 開会：学科・入試説明等</p> <p>3 体験授業 1 時間目：11：00～11：40 2 時間目：11：50～12：30</p> <p>10/3(土)実施</p> <p>A：子どもの世界をのぞいてみよう</p> <p>B：共に楽しむ音楽</p> <p>11:00～11：40 保護者懇談会 「楽しい学生生活を送るために」</p> <p>10/17(土)実施</p> <p>A：能力開発って何？</p> <p>B：ドキドキ・ワクワクピアノ講座</p> <p>** 面接試験対策（模擬面接）</p> <p>11:00～11：40 保護者懇談会 「楽しい学生生活を送るために」</p> <p>4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散</p>

## Ⅱ 入試と広報

### ② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況一覧

2009年実施結果（出願願率 51%）

（単位：人）

回	実施日	こども学科					複数回				
		延べ人数 (受験生・ 保護者)		1.2年生	個別 相談者数	初回	2回	3回	4回	5回	6回
春の 特別 企画	2009.3.24 (火)	7	3	0	0	7					
1	2009.4.25 (土)	8	3	0	5	7	1				
	2009.4.26 (日)	12	7	0	5	10	2				
2	2009.5.16 (土)	18	4	3	4	17	1				
	2009.5.17 (日)	18	9	0	11	10	5	3			
3	2009.6.13 (土)	24	18	0	11	17	3	1	3		
	2009.6.14 (日)	32	15	2	17	30	1	1			
4	2009.7.11 (土)	28	13	0	11	21	2	3	1	1	
	2009.7.12 (日)	45	14	0	20	36	5	3		1	
5	2009.8.29 (土)	30	17	8	10	21	7	1		1	
	2009.8.30 (日)	23	12	15	5	20	2				1
6	2009.9.12 (土)	8	3	2	5	4	2	2			
	2009.9.13 (日)	13	8	1	7	7	3	1	1		1
7	2009.10.3 (土)	15	7	0	7	5	6	1	1		2
	2009.10.17 (土)	28	10	2	5	5	13	5	3	2	
合計		309	143	33	123	217	53	21	9	5	4

### ③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、高校生が本学の雰囲気を知る絶好の機会である。毎年志望校、および受験校の決定時期が早まる中、平成20年度のオープンキャンパスのスタートは、出遅れてしまったのが残念である。ただ、本学では今年も引き続き、土曜日、日曜日と2日間連日開催とした。最近では、土曜日に授業を行っている高校が増えつつある現状を踏まえてのことである。結果的には、土曜日の方が人数的には集客していることが見受けられた。

また、学生会スタッフとして学生会に所属する学生に、誘導やキャンパス見学会等を担当してもらった。学生へは事前指導を行い、当日は、本学の学生の手本として、しっかり

とした対応ができていた。

個別相談会においては、受験生一人ひとりに合った本学の情報を提供することによって、疑問や入試・学生生活への不安を取り除くことができたようである。保護者同伴での参加が多くなる中で、保護者への理解も促すことができた。また、毎年の傾向だが、夏季休業に入ると、参加人数の伸びも感じられている。

昨年は、ホームページへリアルタイムでオープンキャンパス実施報告がなされていなかった反省を踏まえて、今年はオープンキャンパス終了後、リアルタイムに実施報告を掲載することができた。

### (3) その他の広報活動

#### ① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解していただくことである。平成 21 年度は、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と 4 回高校訪問を行った。春期は、指定推薦校を中心に文書をお持ちした。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、指定推薦校の他オープンキャンや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校へ訪問した。冬期は、推薦入学試験や AO 入学試験で合格者のある高校へお礼の挨拶と一般入試へのご案内を含め訪問した。

#### ② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特に、ホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。ホームページの内容としては、各学科の教育内容・取得資格・取得免許状を掲載している。また、受験生に対して、資料請求や質問等に回答できるページを設けており、在学生へは休講、緊急連絡などの情報を提供できるようにしている。

今年度は、学園本部のメディアセンターが更新業務を請け負っているため、リアルタイムでの更新が可能となり、オープンキャンパスの実施報告や大学での新情報を掲載できていた。

#### ③ Web-Site への掲載

本学のホームページ以外に、教育関係業者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 21 年度は、2 社との契約をしているが、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。ここでの効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状を広く知らせることができる。この取組により、資料請求者の



居住地域が広範囲になった。

#### ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会や模擬授業に参加している。そして、本学へ直接来校する受験生や保護者に対しても同様の試みを行っている。ガイダンスに参加することで、高校生のニーズや様子を感じ、本学を志望する生徒に対しての説明ができる。また、模擬授業は、本学教員の教育への取組や姿勢を高校生に理解してもらえるよい機会となっている。

#### ⑤ 広報誌作成

平成 21 年 7 月 1 日付「Jushin News Letter」第 3 号を発行した。掲載内容は、本学園理事長の入学式祝辞、学長の新生へ祝辞、4 月からの行事の紹介、オープンキャンパス情報、オープンカレッジ情報、社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラムのご案内、2010 年度入試日程についての内容を掲載した。

続いて、平成 21 年 12 月 1 日付「JunshinNewsLetter」第 4 号を発行した。掲載内容は、4 月～の学校行事、実習を終えての感想、学生のボランティア活動、外部講師を招いて特別授業、純真祭の報告、入試日程、プレカレッジのご案内、学事日程等の内容を掲載した。

送付先は、資料請求者・オープンキャンパス参加者・指定推薦高等学校進路指導部・近隣の高等学校進路指導部・在学生の保護者などである。

#### ⑥ プレカレッジ

年々、入学試験の実施期間が早まり、大学入学までの時間が長いため、新生の意識や意欲などのモチベーションが下がらないように工夫する必要があるが出てきた。学力低下を防ぐというものだけではなく、合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、新年度からの意識付けになればと考えている。平成 21 年度も、推薦入試・AO 入試の合格者に対して入学前教育（プレカレッジ）の実施を試みた。

##### ○ プレカレッジ概要

###### ・ 日程

必修科目 2010 年 1 月 16 日（土）・2 月 19 日（金）

選択科目 2009 年 12 月 12 日（土）・2010 年 1 月 16 日（土）・1 月 23 日（土）・2 月 12 日（金）・3 月 19 日（金）

特別講演 2010 年 2 月 7 日（日）表現発表会開催（羽生市産業文化ホールにて）

・履修方法：必修科目実施日のどちらかに出席する。選択科目実施日から選択し 1 日以上出席する。

## Ⅱ 入試と広報

### ○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	1 時間目 13:30～14:30	2 時間目 14:40～15:40
選択 平成 21 年 12 月 12 日 (土)	心理学 ～こころの世界へようこそ～	クリスマスソングを楽しもう！
必修 平成 22 年 1 月 16 日 (土)	文章の書き方基礎講座	幼児教育入門 I ～保育の心に触れる～ (1)
選択 1 月 23 日 (土)	子ども文化	こんな時どうする？ ～子どもへの対応方法を学ぼう！～
特別講座 2 月 7 日 (日)	表現発表会 (13:30～16:00 終了予定) 開催場所：羽生市産業文化ホール・小ホール	
選択 2 月 12 日 (金)	保育者・教育者としての心得 【この講座は、保護者の方も参加してください】	先生になるために (保育者・教育者の仕事)
		ピアノレッスン
		【保護者のみ】保護者カレッジ
必修 2 月 19 日 (金)	文章の書き方基礎講座	幼児教育入門 I ～保育の心に触れる～ (1)
選択 3 月 19 日 (金)	幼児教育入門 II ～保育の心に触れる～ (2)	幼児の遊び入門
		ピアノレッスン

#### (4) 成果と課題 (点検・評価)

3年間継続して入学前教育プレカレッジを実施している。毎年シラバスも充実してきており、高等学校への評価も悪くない。大学によっては、高校の通常授業の日に入学前教育を実施しているところがあり、高校の教員は困るなどの情報をえている。参加者が苦にならず、また高校側へも迷惑がかからない実施日を設定する必要があると思う。毎年、実施時

## Ⅱ 入試と広報

間を10時からとし、午前中2時間で終了としていたが、今年は遠方からの参加者のことを考慮し13時30分からの開始時間とした。それにより、遅刻者が減ったようである。開始時間が遅いということは終了時間が遅くなるということになり、この時期は日没が早いため検討するところがあるように考える。参加者へは、アンケートを取っているため、その結果により開始時間や開始時期については、考えていこうと思う。

### Ⅲ 教育活動

#### 1 教育課程

##### (1) 教育課程の編成

教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

また、本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程	小学校教諭二種免許状
	教員養成課程	幼稚園教諭二種免許状
	保育士養成課程	指定保育士養成施設卒業証明書
	司書課程	図書館司書資格証明書
	司書教諭課程	司書教諭課程修了証書
	社会福祉主事任用資格	
	レクリエーション・インストラクター資格 ビブアヘルパー受験資格	
乳幼児保育学科第二部	卒業課程	短期大学士（保育学）
	教員養成課程	幼稚園教諭二種免許状
	保育士養成課程	指定保育士養成施設卒業証明書

##### (2) 学科・専攻の教育課程

###### ① こども学科

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。

本学科で取得できる免許状及び資格は、以下の通りである。

### Ⅲ 教育活動

#### ○ 取得可能免許状及び資格一覧

小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・司書資格・司書教諭資格・社会福祉主事任用資格・ レクリエーションインストラクター資格・ピアヘルパー受験資格
--

#### ② 乳幼児保育学科第二部

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。

本学科で取得できる免許状及び資格は、以下の通りである。

#### ○ 取得可能免許状及び資格一覧

幼稚園教諭二種免許状・保育士資格
------------------

### (3) 成果と課題（点検・評価）

変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成と、より「専門性」の伸長を図るために、平成 21 年度においては、大幅なカリキュラムの見直しを行った。

まず、社会福祉主事任用資格・レクリエーション・インストラクター資格・ピアヘルパー受験資格を取得できるよう、科目名の変更や新設科目をおいた。また、「入門ゼミ」を設置し、「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」と進んでいくゼミの充実を図った。

教科指導法以外の通年科目すべてを、Ⅰ、Ⅱのように半期に分けた。こうすることによって、前期と後期をおいている意義もはっきりし、履修登録のチャンスが増え、万一不合格科目があった時も、そのリカバリーが短期にできるようになった。

## 2 時間割編成と履修指導

### (1) 時間割編成

#### ① こども学科

学生にとって効果的な授業となるように、授業における学生数を講義科目では 50 名以下、演習・実習科目では 40 名以下となるように配慮した時間割編成を行った。

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように、こども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように配慮して時間割編成を行った。

また、小学校課程の科目について、模擬授業などが効果的、効率的に行えるように、1、2 年生合同で受講できるよう編成し、その科目については隔年開講とした。

司書資格や司書教諭資格取得のための科目については、すべて時間割へ組み込むことは

難しく、組み込めない科目は例年通り集中講義として設定した。

## ② 乳幼児保育学科第二部

平成 19 年度の乳幼児保育学科第二部募集停止により、在學生は 3 年生 (6 名) となった。学科廃止にむけての最後の学年として、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格が確実に取得できるよう時間割編成を行った。

## ③ 成果と課題 (点検・評価)

平成 21 年度の時間割編成は、20 年度の反省を踏まえ、新年度に余裕をもって行うことができた。特に大きな問題もなく編成されたと考えるが、集中講義の日程と学生のボランティアの予定が重なってしまうなど、集中講義の日程調整については十分注意が必要である。

## (2) 履修指導

### ① 履修指導

オリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者が学年別履修指導を行った。特に新入生に対しては、授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについて詳しく説明をして、クラス担任からも指導を行った。

クラス担任・ゼミ (総合演習) 担当教員が履修状況の把握と指導を行った上で、履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出させ、教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を把握している。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導も行った。

### ② 成果と課題 (点検・評価)

履修指導は問題なく行われたと考える。

年度を超える引き継ぎが完全に行われなかったという前年度の反省を踏まえ、平成 21 年度は、年度を超える時点での申し送りを徹底させて、新年度の履修指導が行えた。

クラス担任、ゼミ担当教員からの指導で、履修登録票提出期限を守れない学生は減少したが、数名は、何度も履修登録の勧告を受ける状況があった。今後、さらに履修登録期間をはじめとする約束事を徹底させる方法を考えていきたい。

## 3 授業実施状況

### (1) 授業科目の履修者

Ⅲ 教育活動

① 前期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	教養科目 (教養教育科目)	専門教育科目		司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
		こども学科	乳幼児保育学科第二部				
0	0	0	0	0	0	0	0
1-9	0	22	9	4	4	0	39
10-19	12	2	0	0	0	0	14
20-29	9	25	0	3	0	0	37
30-39	2	12	0	1	0	0	15
40-49	2	16	0	0	0	0	18
50-59	0	0	0	0	0	0	0
60-69	0	0	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0	0	0
80-89	2	7	0	0	0	0	9
90-99	0	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0	0
130以上	0	0	0	0	0	0	0
計	27	84	9	8	4	0	132

② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	教養科目 (教養教育科目)	専門教育科目		司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
		こども学科	乳幼児保育学科第二部				
0	3	1	0	0	0	0	4
1-9	2	24	10	1	0	0	37

### Ⅲ 教育活動

10-19	4	10	0	3	0	0	17
20-29	7	18	0	2	0	0	27
30-39	0	17	0	0	0	0	17
40-49	0	8	0	0	0	0	8
50-59	0	2	0	0	0	0	2
60-69	1	0	0	0	0	0	1
70-79	0	2	0	0	0	0	2
80-89	0	1	0	0	0	0	1
90-99	0	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0	0
130以上	0	0	0	0	0	0	0
計	17	83	10	6	0	0	116

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

少人数クラスによる授業の実施がより徹底され、学生数 50 名以内の適切な人数での授業がなされた。中には履修者 50 名以上という授業もあるが、これらの科目もその授業内容から学生への効果を考慮してのことである。しかし、これも複数教員で担当し、1 教員に対する学生数は 50 名以内となるようにしている。

特に「英語コミュニケーション」「日本語表現（文章表現）」のような少人数の方が望ましい授業は、13 名程度で実施し、効果をあげたと考える。

今後さらに履修希望者の動向を把握しながら、科目設置や科目内容の見直しを検討していきたい。

#### （２） 授業の開講・休講及び補講の状況

##### ① 授業時数

平成 21 年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに 15 回開講された。

##### ② 休講の状況

###### （a） 前期

（単位：科目）

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	1	0	0	0	0	3	2	1	7



### Ⅲ 教育活動

専門科目	こども学科	0	0	0	0	0	0	0	2	3	13	18
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	1	0	0	0	0	6	6	18	31

#### (b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分		休講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	5
専門科目	こども学科	0	0	0	0	1	0	3	2	12	11	29
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	2	0	4	3	14	12	35

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校・中学校教育実習のために休講となった授業は、この表には含まない。

### ③ 補講の状況

#### (a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分		補講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	1	0	0	0	0	2	3	0	6
専門科目	こども学科	0	0	0	0	0	0	0	2	4	10	16
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	5
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	1	0	0	0	0	6	8	13	28

Ⅲ 教育活動

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分		補講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	5
専門科目	こども学科	0	0	0	0	1	0	0	4	8	15	28
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	2	0	1	5	10	16	34

④ 成果と課題（点検・評価）

すべての授業において、前期・後期ともに全教科 15 回以上の授業（試験を含む）を実施した。この回数実施にあたり、実習などでやむを得ず休講になった科目は、補講の実施を行った。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
非卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	1	0	0	2	0	1	1	5	10

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	12
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

Ⅲ 教育活動

学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	6
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	1	0	1	8	13	23

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				2	1	0	0	1	0	1	1	0	1	7

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	5
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	1	0	1	1	1	4	8

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	1	1	1	7	17	27	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				0	0	0	0	0	1	1	1	7	33	43	

Ⅲ 教育活動

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	2	0	0	0	1	0	0	0	3	5	0	11
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				2	0	0	0	2	1	0	3	7	4	19	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	5	11
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	1	0	0	2	0	4	0	7	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				0	0	0	1	0	0	2	1	9	7	20	

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、前期・後期ともに中間の7～8週目にかけて欠席状況調査を行い、出席状況が不十分な学生に対しは個別に、授業担当者及びクラス担任から指導を行

### Ⅲ 教育活動

い、出席回数不足による受験無資格者はごくわずかとなった。しかし、わずかとは言え、資格必修科目や免許必修科目を落とすことは、希望していた資格・免許取得を断念する結果となり、そのようなことがないように、より一層の指導が必要であるとする。

夏季休暇後の後期になると授業を欠席する学生が増え始め、前期に比べて多くなる傾向が依然としてみられるが、平成20年度より改善されたと考える。2年生においては、公欠にならない就職活動による欠席も多いと考えられるが、1年生においては、学生生活への慣れや気持ちの緩みが考えられるので、今後とも学生指導の上で留意すべき事項とする。

#### (4) 免許状・資格取得状況

##### ① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書資格	司書教諭資格	小学校教諭二種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	7	-	-	81	81	0	81
		こども学コース	2年	-	4	7	7	-	0	7
	乳幼児保育学科第二部		3年	-	-	-	5	5	1	6
	小計			7	4	7	93	86	1	94
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	25	-	-	78	78	0	79
		こども学コース	1年	-	1	2	1	-	0	2
	小計			25	1	2	79	78	0	81
合計				32	5	9	172	164	1	175

Ⅲ 教育活動

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年				非卒業学年			合 計	
	こども学科		乳幼児保育 学科第二部	小計	こども学科		小計		
	乳幼児 保育 コース	こども 学 コース			乳幼児 保育 コース	こども 学 コース			
	2年	2年	3年	1年	1年				
小学	-	0	-	0	-	0	0	0	2
幼稚	0	0	0	0	1	0	1	1	
保育	0	-	0	0	1	-	1	1	
司書	0	-	-	0	0	-	0	0	
小学・司書	-	-	-	0	-	-	0	0	136
小学・司教	-	0	-	0	-	1	1	1	
幼稚・司書	-	3	-	3	-	1	1	4	
幼稚・小学	-	3	-	3	-	1	1	4	
幼稚・保育	74	-	5	79	52	-	52	131	
保育・司書	0	-	-	0	0	-	0	0	
小学・司書・司教	-	-	-	0	-	-	-	0	36
小学・幼稚・司書	-	-	-	0	-	-	-	0	
小学・幼稚・司教	-	4	-	4	-	0	0	4	
幼稚・保育・司書	7	-	-	7	25	-	25	32	
小学・幼稚・司書・司教	-	-	-	0	-	-	0	0	0
無免許・無資格	0	0	1	1	0	0	0	1	1
計	81	7	6	94	79	2	81	175	

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状 幼稚：幼稚園教諭二種免許状 保育：保育士資格 司書：司書資格 司教：司書教諭資格

③ 成果と課題（点検・評価）

子ども学科の両コースと乳幼児保育学科第二部の学生ともに、100%に極めて近い比率で、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得している。このことから、免許状や資格取得に対して、学生は意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業しているといえよう。

## (5) 教育実習・保育実習・介護等体験

### ① 実習等の位置づけと目標

こども学科及び乳幼児保育学科第二部には、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コース及び乳幼児保育学科第二部では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

#### ○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1年次に施設実習、2年次に教育実習、保育実習、介護等体験などが組み込まれるが、いずれもこれらの実習は、次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や保育の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すものである。次に、教育や福祉の現場に触れることによって、自らの将来像を見つめ、教育や福祉に関する造詣を深めることである。

### ② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は「実践研究」の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は、各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を観察し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価票などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

#### (a) 小学校教育実習

平成20年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成21年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えやサービスの諸注意等の理解、また、授業計画の立て方等、実践的な教授技術の養成を行った。また、「実践研究」では、模擬授業を行うことにより授業実践力を培うことができた。模擬授業の反省会では学生同士がお互いを高め合う活発な意見交換が行われ、有意義なものとなった。

実習に対する評価は概ね良好であったが、教員採用試験では、1次試験を通過する者がお

### Ⅲ 教育活動

らず、今後は、教員としての知識、理解の分野を中心とした計画的な指導が必要である。また、昨年卒業し、公立小学校で臨時職員をしていた者が今年度採用試験に合格し正式採用となったことも付け加えておく。

#### ○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数(単位:人)	実施校数(単位:校)
平成21年10月5日～10月30日	6	6
合計	6	6

#### (b) 幼稚園教育実習

実習への参加に当たっては、1年次に「幼稚園教諭論」「教育原理」の履修、そして単位取得が必要となっている。特に、「幼稚園教諭論」では実習園の選定や交渉に際しての事前指導をも行い、担当教員が「実践研究(幼稚園)」へのつながりを考慮しながら展開した。実習実施に当たっては、学習状況や生活態度などから学生の配慮点を把握し、具体的な個別の指導を展開した。21年度後半には、2年生と実習の実際について情報交換を行い、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ、準備物や心構え等について学習している。

2年次の実習では事前指導の段階に応じて、前半実習・後半実習それぞれの目標や課題を知らせ、各自の自己課題を設定させた。さらに、何より、子どもの前に立つことや人間関係における不安を軽減するために、いくつかの模擬的な指導、対応場面を例示し、教職員との関わり方などをも説明した。また、幼稚園実習への参加許可は1年次の施設実習や保育所実習の取組や成果にもよることを知らせ、実習の事前事後指導への取組の態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項など繰り返し指導した。

終了後は個別に面談を行い、実習園の評価表を基に担当教員が実習を終えての自己課題を明らかにさせながら、園による評価を自身の反省に資するよう伝えた。

#### ○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期	平成21年5月25日～6月6日	91	79	こども学コース2年 乳幼児保育コース2年 乳幼児保育学科第二部3年
後期	平成21年10月13日～10月26日	82	73	乳幼児保育コース2年 乳幼児保育学科第二部3年

#### (c) 保育所保育実習

実習を実施するにあたっては、「実践研究」の授業を中心に事前・事後指導を行った。事前指導においては保育所保育指針を参考に保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また講義だけでなく、外部からの講師も招聘し、実習にあたっての留意点や心構えなどを伺った。



### Ⅲ 教育活動

実習中は、電話での個別相談や、巡回指導を通じて実習の把握や指導を行った。

事後指導については、実習のまとめや反省を作成させた。また、それらと園からの評価表を用いて個別の面接を実施し、今後の課題などを話し合い、保育者としての役割について改めて認識を深めるよう指導を行った。

本年度は、監督官庁からの指導もあり従来連続して行っていた保育実習と保育実習Ⅱを前半と後半の2期に分割し実施した。前半と後半の間で振り返りと後半への指導を行ったが、実質1週間では、絶対的な時間が足りなかった。来年度は、更に実習日程を検討し、前半と後半の間隔を十分にとり、前半実習の反省をもとにした後半実習への指導・準備を行うべきと考える。

#### ○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期	平成21年7月6日～7月21日	80	72	乳幼児保育コース2年 科目等履修生
	平成21年7月6日～7月21日	5	5	乳幼児保育学科第二部3年
	合計	85	77	
後期	平成21年7月27日～8月10日	80	72	乳幼児保育コース2年 科目等履修生
	平成21年7月27日～8月10日	5	5	乳幼児保育学科第二部3年
	合計	85	77	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

#### (d) 施設実習

本学では、「施設実習」を「幼稚園実習」・「保育所実習」に先立つ、はじめての実習として実施している。施設実習においては、他の二つとは異なり、原則的に大学が配属先として決定した施設に学生を紹介し、宿泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、特に、学生本人が強く希望した場合、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、こども学科専任教員9名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県の施設も訪問した。

#### ○ 施設実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実施施設数(単位:園)	実施学科・学年
	平成22年2月15日～平成22年2月26日	75	40	こども学科1,2年 科目等履修生
	合計	75	40	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

### (e) 介護等体験

介護等体験実習事前指導については、前年度の平成20年度後期授業から実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際に車イス等を使用し、操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護の基本的部分についての取り組みにも努めた。こども学コースの小学校教諭二種免許の取得を希望する学生が、平成21年8月上旬から平成21年12月中旬に社会福祉施設において、また、平成21年9月14日～15日に埼玉県立行田特別支援学校において介護等体験実習を行った。短期間の実習ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って実習に取り組む姿勢が見られた。また、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができたと思われる。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技の授業の充実を図っていかねばならないと考える。

### ③ 成果と課題（点検・評価）

各実習とも、適切な事前事後指導が行われており実習先からも概ね良好な評価を得ることができた。しかしながら若干の学生は厳しい評価を下されているのも事実である。昨年の反省も活かし、本年度は、保育者としての意識を高めるよう各実習指導とも取り組んだが、単年度で達成できるものではないのかもしれない。1年次の早い時期から保育者としての意識を高めるためにも早期の現場体験が必要かと考えられる。来年度は、全体のカリキュラムを考えた上で、保育者としての意識を高めることができるような実習時期の検討を行う必要があると考える。

## (6) 授業内容と教育方法の工夫・研究

### ① こども学科

各教員は、理論と実践の融合させた即戦力として役立てる専門職の養成を目指し、授業内容と教育方法の工夫を行っている。

具体的な授業方法としては、従来型の板書に頼るだけでなく、パワーポイントなどで作成した資料を、プロジェクターを利用して提示するなどで学生が理解しやすい授業を行っている。また、学生にとって授業をより興味深いものとし、学生主体で展開するために、グループワークや模擬授業を積極的に取り入れている。

さらに授業内容をより確実に学生自身のものとするために、ワークシートなどでフィードバックできるよう工夫し、できるかぎりフィールドワークから得られた現場の事例を一般化した内容として学生に教授するために、現場からの外部講師の招聘や現場に出での学外授業も盛んに実施された。

### ② 乳幼児保育学科第二部

各教員は、こども学科と同様に、理論と実践の融合させた即戦力として役立てる専門職

の養成を目指し、授業内容と教育方法の工夫を行っている。特に乳幼児保育学科第二部は1クラスの学生数が6名と少人数なため、個々人の発言や発表の機会が多く、質疑応答形式のより個に行きとどく個別指導ともいえる授業が行われた。

さらに授業内容をより確実に学生自身のものとするために、ワークシートなどでフィードバックできるよう工夫し、できるかぎりフィールドワークから得られた現場の事例を一般化した内容として学生に教授するために、現場からの外部講師の招聘や現場に出での学外授業も盛んに実施された。

### ③ 成果と課題（点検・評価）

平成21年度は、各教員が個々の授業をより魅力的なものとするために、研究日を利用して小学校や幼稚園、保育所などでフィールドワークを行い、それらの研究成果を授業に活かしていったことは評価できる。また、教授方法においても学生が理解しやすいようにとさまざまな工夫を凝らしていた。このような教員の積極的な姿勢は、学生の授業態度にも反映されていた。学生も教員の影響を受け、保育士養成協議会において学生が授業と実習から学んだことの発表し、高い評価を受けた。

これに満足することなく、今後とも各教員は研究と授業方法の工夫を続け、これを教員間相互の連携と共有を図りながら、授業内容と教育方法をより一層充実させていきたいと考える。この平成21年度は、新しい本学のあり方を模索した成果の年だったと言える。

## （7） 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

### ① 実施経緯

本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を図れるものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、以下の要領で「学生による授業評価アンケート」を実施した。

#### ○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

1 アンケート調査の所轄は教務課とする。

2 対象科目について

(1) 調査対象科目及び時期

(a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）

(b) 科目種類：講義・演習・実習・実技

(c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業

(2) 調査実施手順について

(a) 教務課において実施要項及びアンケート用紙を準備

(b) 調査実施する授業終了20分前にアンケート用紙を配布し、主旨・方法を説明し実施する。

### Ⅲ 教育活動

<p>(c) 回収後、アンケート用紙は教務課において保管</p> <p>(3) 調査結果の集計について</p> <p>教務課において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようになると共に、同課において集計処理する。</p> <p>(4) 調査結果の公表について</p> <p>集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。</p> <p>(5) アンケート内容について</p> <p>授業評価にとって重要なアンケートの質問事項は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実技・実習用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。</p>
--

## ② 集計結果

### (a) 学生の授業への取組について

○集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	62.4%	21.1%	9.7%	4.2%	1.8%	0.9%	0.0%
2	52.3%	36.0%	9.6%	0.9%	0.2%	0.9%	0.0%
3	28.6%	24.4%	28.5%	9.9%	7.8%	0.8%	0.0%

○集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	45.7%	25.5%	15.8%	9.2%	3.3%	0.4%	0.0%
2	56.7%	32.5%	9.2%	0.8%	0.7%	0.1%	0.0%
3	39.5%	24.7%	21.9%	6.8%	7.0%	0.1%	0.0%

注) 項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」

項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

### (b) 授業内容について

○集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	45.8%	30.8%	17.6%	4.0%	1.0%	0.8%	0.0%

### Ⅲ 教育活動

5	48.8%	29.3%	17.3%	3.0%	0.9%	0.8%	0.0%
6	54.9%	27.7%	13.7%	1.9%	0.9%	0.9%	0.0%
7	53.0%	25.3%	15.0%	4.3%	1.5%	0.9%	0.0%
8	46.9%	28.3%	18.6%	3.7%	1.5%	1.0%	0.0%
9	48.5%	26.3%	17.8%	2.6%	1.4%	3.5%	0.0%

#### ○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	58.4%	26.8%	12.6%	1.4%	0.6%	0.2%	0.0%
5	60.1%	25.8%	12.3%	1.0%	0.6%	0.2%	0.0%
6	63.4%	24.4%	10.6%	1.1%	0.3%	0.3%	0.0%
7	61.6%	25.4%	11.1%	1.3%	0.4%	0.3%	0.0%
8	59.1%	26.3%	12.4%	1.4%	0.4%	0.4%	0.0%
9	58.9%	25.8%	11.7%	1.1%	0.5%	2.1%	0.0%

注) 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

### ③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいように、授業担当者が実施するのではなく、教務課職員がアンケートを実施した。

この集計は教務課職員が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生からの自由記述に対して、学生へのフィードバックとして「授業評価アンケート結果に対するコメント」を出した。このように、各教員は学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善へ取り組んでいる。

この「学生による授業評価アンケート」の集計結果と教員からのコメントは、1冊のファイルまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにした。

Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙 A）

学生による授業評価アンケート調査用紙		用紙 A（講義・演習）	
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	
<p>この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。</p> <p style="text-align: center;"><b>※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。</b></p> <p><b>〔I〕 授業への姿勢について</b>  <b>該当する項目に○を付けてください。</b></p> <p>質問 1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上                      質問 2 熱心に授業に取り組んだか。                      [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ                      質問 3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。                      [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ</p> <p><b>〔II〕 授業内容について</b>  <b>該当する項目を○で囲んでください。</b></p> <p>[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない</p> <p>質問 4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]                      質問 5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]                      質問 6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]                      質問 7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]                      質問 8 授業の進め方が適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]                      質問 9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。                      [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問 10 この授業に出てあなたの将来にとって役に立つ知識、技能または考え方が得られたか。                      具体的にどんなものが得られたか書いてください。                      [ ]</p> <p>質問 11 この授業を通して自分の考え方が変わったか。                      具体的にどんなふうに変ったか書いてください。                      [ ]</p> <p><b>〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%; margin-top: 5px;"> <hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/> </div>			

### Ⅲ 教育活動

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙 B）

学生による授業評価アンケート調査用紙		用紙 B（実験・実習・実技）	
曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
		月 日	
<p>この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。</p> <p style="text-align: center;"><b>※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。</b></p>			
<p><b>〔I〕 授業への姿勢について</b>  <b>該当する項目に○を付けてください。</b></p> <p>質問 1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上                  質問 2 熱心に授業に取り組んだか。                  [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ                  質問 3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。                  [1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ</p>			
<p><b>〔II〕 授業内容について</b>  <b>該当する項目を○で囲んでください。</b></p> <p>[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない</p> <p>質問 4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]                  質問 5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]                  質問 6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]                  質問 7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]                  質問 8 授業の進め方が適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]                  質問 9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。                  [1] [2] [3] [4] [5]</p> <p>質問 10 この授業に出てあなたの将来にとって役に立つ知識、技能または考え方が得られたか。                  具体的にどんなものが得られたか書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>質問 11 この授業を通して自分の考え方が変わったか。                  具体的にどんなふうに変ったか書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			
<p><b>〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>			

## IV 学生生活

### 1 学生の動向

#### (1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

##### ① 平成 19 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
乳幼児保育学科第二部	8	-	6	0	2	0	0

##### ② 平成 20 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数	
こども学科	乳幼児保育コース	83	-	78	1	5	0	0
	こども学コース	8	-	7	0	0	0	0
合計	91	0	85	1	5	0	0	

※乳幼児保育コース 留年者(平成 19 年度入学生)1 名卒業除く

※こども学コース入学後、乳幼児保育学コースへ転コース 1 名

##### ③ 平成 21 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数	
こども学科	乳幼児保育コース	79	73	-	0	4	0	2
	こども学コース	2	2	-	0	0	0	0
合計	81	75	-	0	4	0	2	

#### (2) 学生の動向

##### ① こども学科

平成 21 年度の入学生は 81 名であり、乳幼児保育コース 79 名、こどもコース 2 名であった。こども学コースの人数が少ないため、人数のバランスを考え、クラスはこども学科 1 学年全体の 81 名を 3 クラスに分けて編成した。1 年次における退学者は 4 名であった。主な理由は、人間関係、進路変更によるもので、前期内での退学となった。全体的には、積極的で前向きな学生が多く、けじめのある学生生活を送れている。

2 年生も、1 年生とのバランスを考え、こども学コースだけを分けずに、こども学科 2 学年全体の 85 名を 3 クラスに再編成をし、4 月のオリエンテーションで発表した。大きな混乱もなく、スポーツ大会のクラス対抗や学園祭の活動などスムーズに行えた。



2年次になっても、精神的ストレスなどの理由から、退学者が2名出た。退学をしないまでも、対人関係に問題をもち、特別に配慮する学生もいた。個人的な理由で一年間休学していた学生は復学をして、無事に卒業をした。

## ② 乳幼児保育学科第二部

平成19年度の乳幼児保育学科第二部の募集停止により、平成21年度は3年生の6名のみとなった。少人数ならではの協力的な関係を維持しつつ、最終学年まで残った仲間意識もあり、最後まで意欲を持って卒業の一年を過ごせていた。

## (3) 成果と課題(点検・評価)

平成18年度から平成19年度にかけて「英語コミュニケーション学科」と「乳幼児保育学科第二部」と相次いで募集停止をしたことから憶測を生んだのか、「埼玉純真短期大学はなくなる」といった風評が埼玉県を中心とした高校に広まった。このことにより、それまでオーバーしていた本学「こども学科」への入学希望者も激減し、平成21年度入学生は前年にも増して最低の状況となった。

しかしながら、本学は「学生教育や研究活動の真摯に向き合う姿勢とその成果こそが、このような風評を打ち消してくれる」との、全教職員一致した考えと行動で臨んだ。

この結果、教職員はもとより、学生達も「社会に求められる保育者・教育者を目指す」との一致した目的意識をもって、授業をはじめとする学生生活を展開した。この危機感が、学生達の学生生活を前向きにさせ、それに対して、教職員も積極的かつ適切にサポートをしてきた。

ひとり一人の学生の顔と名前を全教職員が認識し、声がけできる少人数であるため、学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教員が共通理解のもとに適切な学生指導が行われた。

特に昨今は、学生の抱える問題も多様化し、学生のみで解決できる問題ばかりでなく、保護者を交えて、それに対する支援や対応のあり方について考えなければならない状況になってきている。

このような状況の下で、結果的であったとしても少人数になり、ひとり一人に適切なアドバイスができていくことは好ましいことだと評価する。

このような地道であっても真摯な態度や行動は社会に受け入れられるもので、来年度の入学予定者は本年の20%増となっている。

このことを通して、やはり「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識した次第である。しかし、これに満足することなく、今後もさらにより良い学生指導に向けて、いろいろと検討していく必要がある。

## 2 クラス担任制度

### (1) こども学科

1年次においては、入学初期における不安を抱える学生の把握に努めた。その手立ての一つとして、入学前教育と学外研修がある。学外研修では学級単位の活動に取り組むことでコミュニケーションを図ることはもとより、新生活に対する不安を緩和することができた。また、担任制を活かした「入門ゼミ」においては、学年、学級での学習活動・一斉指導を行うことで、学生一人一人の実態を理解し、個に応じた指導に生かすように務めた。

2年次においては、就職委員会とともに学生の進路希望についての情報を収集し、個別に声掛けや個別面談を行い、個の実態を踏まえた指導を行った。

平成21年度は学級担任制をとりつつ、2年次においては「総合演習」の担当者が担任としての業務に当たった。通常、学級担任は授業科目等の事情により自分の学級の学生と会う機会が少なくなる場合がある。しかし、「総合演習」の担当が担任業務を行うことで、週に一度の授業において、学生とのコミュニケーションを図ることができた。今後、担任業務や学級経営についての方針を共通理解し、親身な指導が行き届く学年経営や担任体制を一層考慮していく必要がある。

### (2) 乳幼児保育学科第二部

少人数でもあり、クラスのみとまりや相互理解もあり穏やかで和やかな関係が築かれている。学習面や生活面で配慮を要する学生には、同級生の配慮と気配りがあり、集団としての成長が見られた。すでに将来の子ども達を指導するに相応しいと安心できる学生に育ってきている。

第二部最終の学年としての自覚からか、多忙な生活の中でも保育士、幼稚園教諭を目指しての取り組みは素晴らしいものであった。

### (3) 成果と課題（点検・評価）

本学のような職業人養成型の短期大学の学生は、おしなべて入学当初より目的意識をしっかりともち、職業を見据えての学生生活を積極的に過ごしている。

これらの学生に対しては、本学も入学前教育にはじまり、新入生オリエンテーション合宿、クラス単位による導入教育を行うと共に、クラス担任は定期的に学生との面談をおこない、問題を事前にキャッチし、対処するなど適切にサポートをおこなっている。

学生に問題が生じた場合などには、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、そして学長との話し合いを持つと共に、教授会において学生の動向が報告され、共通理解のもとに学生に適切な指導が行われている。

学生の抱える問題も多様化し、それに対する支援や対応のあり方については、今後検討される課題である。

### 3 学外における研修

#### (1) 実施概要

平成 21 年度の学外オリエンテーションは、太陽の国共同作業所「ゆうあい工房」(福島県西白河郡西郷村)、そして国立磐梯青少年交流の家、野口英世記念館(福島県摩耶郡猪苗代町)を会場として2泊3日の日程で行われた。研修の目的は、「学外での生活の中で、同級生や教員との交流を通して、埼玉純真短期大学での生活に期待を持つとともに、親睦と相互理解を深める」である。また、教務や学生生活についての説明を受け、時間割作成をしたり、様々な研修活動に取り組んだりすることを通して今後の学習生活に思いを馳せることにもある。

平成 21 年度の学外オリエンテーションは、このような趣旨で以下のプログラムに従って実施され、学生 81 名と教職員 9 名が参加した。

#### ○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成 21 年 4 月 7 日 (火)		平成 21 年 4 月 8 日 (水)		平成 21 年 4 月 9 日 (木)	
時 間	内 容	時 間	内 容	時 間	内 容
8:50	集合 羽生駅西口	6:15	起床・身辺整理	6:15	起床・身辺整理
9:00	出発 (貸し切りバス)	7:00	朝の集い 清掃	7:00	朝の集い 清掃
	羽生 IC ~	8:50	朝食	7:45	朝食
	昼食 (各自)	9:00	研修 B「教務連絡」	8:15	清掃・片付け
		10:45	研修 C「教養・文化：会	8:50	集合
13:00	ゆうあい工房 着		津の民話」	9:00	退所集会
	見学	12:00	昼食	9:40	出発
15:30	「交流の家」 着	13:20	研修 D「創作活動：七宝	10:00	研修「野口英世記念館」
17:00	・タベの集い	15:00	焼」	11:40	昼食「猪苗代地ビール館」
17:30	・夕食		クラス集会	13:00	出発 (貸し切りバス)
18:20	・休憩	17:00	休憩		※柏屋販売所見学
19:00	・研修 A 「ゆうあい工房」	17:30	タベの集い	15:30	羽生駅西口着
	の振り返り		夕食		解散
	・連絡	19:00	休憩		
20:00	・入浴		研修 E「先人に学ぶ：野		
	・休憩／ 班長会		口英世について」		
22:30	・就寝	20:00	連絡		

		22:30	入浴 休憩 / 班長会 就寝		
--	--	-------	----------------------	--	--

## (2) 成果と課題 (点検・評価)

友達関係が固定されていない入学直後に宿泊研修を行うことの意義は大きく、レクリエーションなどの活動を通して今回の研修の目的である学生間、学生教員間の親睦を図ることができた。また、係を決めることで、諸活動の運営や自分たちの行動に責任を持って取り組むことができた。「太陽の国」での研修は施設実習をはじめ今後の学習への導入的な内容として有意義であった。また、教養・文化研修では、地元、会津の方々を講師として創作活動などを行うことで、効果的に参加者相互のコミュニケーションを図ることができた。

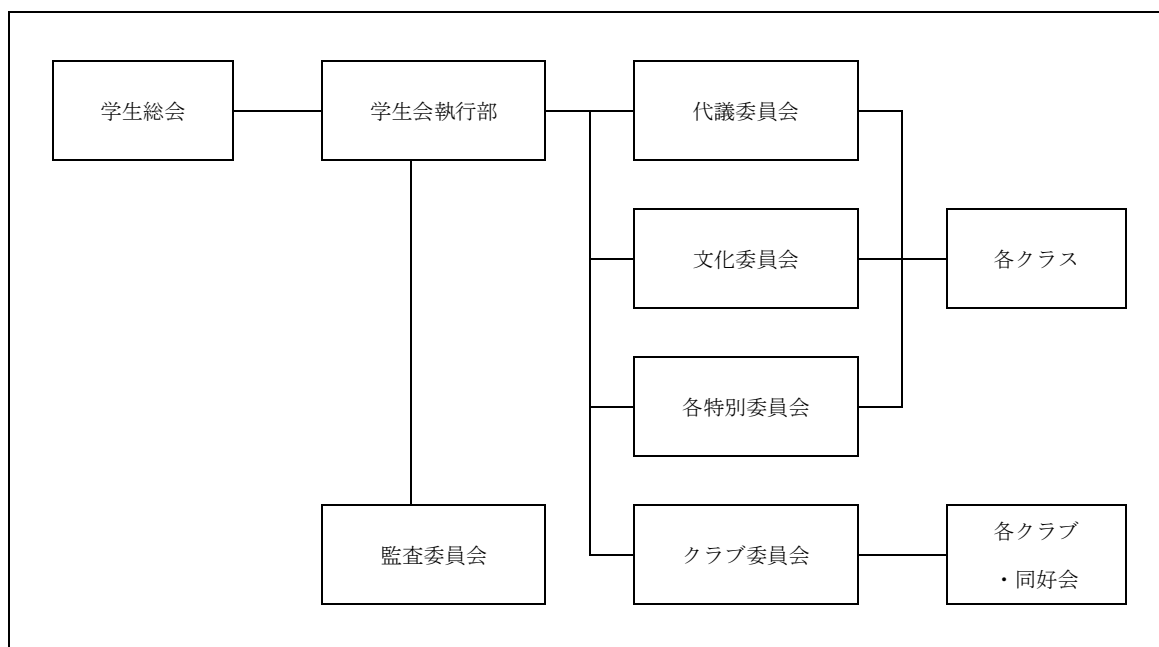
今後、学生生活のイメージを具体的に描かせたり、期待を持たせるために新 2 年生を参加させ、新入生に対する助言を与えるなどの機会を設けるのも一つの方法かと考える。

## 4 課外活動

### (1) 学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長 1 名・副会長 2 名以内・書記 2 名・代議委員長 1 名・文化委員長 1 名・クラブ委員長 1 名・各特別委員長 1 名から構成されている。学生部長（学生委員会委員長の教員）・学生委員会委員（教員）・事務局の学生事務担当者等から指導助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

○ 学生会組織



### (2) 学生会主催行事

#### ① 学生会オリエンテーション

学生会では、年度当初に行われるオリエンテーション期間の最終日に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施している。平成 21 年度は学生会組織の説明や、各クラブ・同好会の協力を得て、各クラブ・同好会の活動紹介を行った。またオリエンテーションの最後には全員の交流を目的としたレクリエーションを行った。

新 2 年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションは、緊張と不安を少なからず持っているであろう新入生が、本学の学風に親しみを持つことができる機会となることに加え、これからの学生生活に期待と希望を抱かせるきっかけにもなっている。また、

新2年生も、リーダーとしての自覚を持ち、卒業年度における意識の高まりを促す機会にもなる行事である。

## ② スポーツ大会

スポーツ大会は、スポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教員の交流を深めることも目的として実施されている。学生会執行部、各クラブ・同好会の部長や代表者、各クラスから選出されたスポーツ大会委員が企画・運営にあたり行われた。

クラスメイトと協力しお互いに励まし合いながら競技に取り組む姿や自分が競技に参加していない時でも仲間の応援を一生懸命にする姿がみられるスポーツ大会は、保育者を目指す本学の学生にとって貴重な体験となっていることを強調したい。

## ③ 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。学生会主催行事の集大成的行事であり、学生委員会の教員が学生会執行部の活動をサポートしながら、学生主体で企画・運営が行われている。5月に行われるスポーツ大会終了後、その年度のテーマの選定、企画案の策定が行われる。夏季休業中には、近隣の企業等に純真祭の趣旨を説明し協賛金という形で協力をお願いする活動を行っている。2年生にとっては、毎日の授業に加え、実習と純真祭の準備に追われ多忙になるが、1年生が仕事を覚えながら2年生のサポート役を務め、学生ひとりひとりが達成感を得られる行事である。

○ 学生会主催行事及び学生会執行部が出席した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・新入生オリエンテーション・在校生オリエンテーション・健康診断
5月	スポーツ大会
6月～9月	オープンキャンパス
11月	純真祭
3月	卒業式・卒業記念パーティー

## (3) クラブ活動・同好会活動

本学のクラブ・同好会は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系、福祉系とその活動は多彩である。各クラブ・同好会の活動を円滑に行うため、各クラブ・同好会の部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各クラブ・同好会に配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

#### IV 学生生活

##### ○ クラブ・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (5)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス
文化系 (4)	吹奏楽・軽音楽・茶道・国際児童文化研究会
福祉系 (2)	ウェルフェア・スマイル

### (4) 研修活動

#### ① リーダー研修

新 2 年生の学生会役員と各ゼミの代表者を中心に研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

##### ○ リーダー研修の概要

期日：平成 22 年 2 月 9 日～10 日 (2 日間)

場所：110 番教室

参加者：学生会役員・各ゼミの代表者

目的：平成 22 年度純真祭についての話し合い

##### ○ リーダー研修日程

平成 22 年 2 月 9 日 (火)		平成 22 年 2 月 10 日 (水)	
時間	内容	時間	内容
10:00	110 番教室集合・出席確認	10:00	110 教室集合・出席確認
10:10	開会式 ・学生部長挨拶 ・学生会役員紹介 (学生会長) ・各ゼミ代表者自己紹介	10:10	1 日目に話し合った内容の確認 2 日目の話し合う内容の確認
10:30	平成 22 年度純真祭について ・趣旨説明 (学生部長) ・実施内容についての意見交換	10:30	各部門ごとの話し合い
13:00	昼食 (110 教室)	12:30	昼食 (110 教室)
14:00	実施内容の話し合い・決定 担当部門決定	13:30	各部門ごとの話し合いの途中経過の確認・意見交換
15:40	1 日目の講評 (学長) 2 日目の予定の確認 (学生部長)	14:00	各部門ごとの話し合い
16:00	解散	15:00	各部門ごとの話し合い結果の確認・意見交換
		15:50	今後の予定の確認 閉会式 ・学生部長挨拶
		16:00	・学長挨拶 解散

## (5) 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度は、学校行事やクラブ・同好会活動等、学生主体の活動に対して教職員が助言や指導を行うという形で、大学全体でバックアップする体制のもとで行われた。中でもスポーツ大会や純真祭といった行事を学生会執行部が中心となり、学生全員で成功裏に実施できたことは、保育者を目指す本学の学生にとっても貴重な経験になったと考える。一方で、実習や就職活動と行事の準備を両立して行うことは学生にとっても教職員にとっても少なからぬ負担となっているので、今後、企画・運営・開催時期等、行事のあり方を検討する必要がある。

## 5 学生生活への配慮・支援

### (1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年 4 月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込み・利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また平成 21 年度には「福田敏南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生への支援制度を充実させた。本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

#### ○ 奨学金等一覧

名 称	概 要
福田敏南記念育英学生	埼玉純真短期大学初代学長福田敏南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的とし、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金	1967 年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的援助する奨学金である。

### (2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。



本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

### ① 保健室

学内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

### ② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、年度当初のガイダンスで健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙は、本学では学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

## (3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に全員加入している。入学と同時に加入することから、学内では学生事務担当者が保険について管理している。

## (4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生専用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年2回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを目的とし、1人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞ける機会となっており、1人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

なお、学生委員会の教員及び学生事務担当者は、月1回程度のアパート巡視を行い、学生の生活指導や相談にのるよう努めている。

## (5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近

#### IV 学生生活

隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅まで JR 高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父線などを利用し、羽生駅からは徒歩や自転車で通学している。遠隔地出身で上記アパートなどに居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、羽生駅と学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命にかかわる事故の危険度が高いので、通学的手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位：人)

自転車駐輪場	32
自動車駐車場	50

### (6) 学生相談室

学生相談室は、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：青木 万里（こども学科専任講師）

相談場所：学生相談室

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は 42 名で、主訴内容は次のとおりであった。(括弧内は相談者数)

心理・性格 (14)・心身の健康 (6)・人間関係 (家族・友人・教員・その他) (13)・履修・勉学 (0)・その他 (2)

そのほか、教職員・保護者への面接(7)を行った。

相談内容では、心理・性格についての相談（自分の適性、これからの生き方など）と人間関係についての相談（クラスの友人関係、クラブでの人間関係など）が全体の 6 割強を占めた。また本年度は昨年度と比較すると、相談件数がほぼ 2 倍となり、来談率は全学生数の 2 割を超えた。相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々々のニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

### (7) 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少なくない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当に相談をする学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月 1 回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。個々の学生のニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

## V 就職と進学

### 1 就職

#### (1) 就職指導

##### ① 就職委員会の基本方針

専任教員による学生の就職・進路に対する支援体制であり、就職ガイダンスをはじめ、進路相談や履歴書の作成、模擬面接、礼状の作成など学生個々に対応した指導を行った。

これまでの取組を踏襲しつつ、学生や求人先の実情を考慮しながら指導を行った。本学の場合は、求人先と教育・保育実習との関わりが深く、また、卒業生の就職、就業状況も影響しているため実習指導との連携や一体化、また、教職員と求人先との関係を大切にしました。

##### ② 平成 21 年度年間就職指導計画

○ 平成 21 年度就職指導年間計画一覧（平成 21 年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成 21 年 4 月 16 日・30 日	企業・公務員（保育士・幼稚園教諭・司書・小学校）コース別指導
5 月 21 日	公務員試験・保育士採用試験対策指導、書類作成の方法、求人票についての説明
6 月 18 日・7 月 2 日	実習前就活指導、群私幼・保、栃幼連の事前説明
9 月 24 日・10 月 8 日	実践対策
11 月 5 日	内定後すべきことについて
平成 22 年 1 月 14 日	卒業生による職場紹介（幼稚園教諭・保育士）
随 時	履歴書作成、就活（連絡・見学等）相談、模擬面接等

○ 平成 21 年度就職指導年間計画一覧（平成 22 年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成 21 年 11 月 12 日	履歴書作成について、今後の取り組みについて
平成 22 年 1 月 14 日	卒業生による職場紹介（幼稚園教諭・保育士）

##### ③ 学科別の就職指導

具体的な指導として、1 年次後期に就職登録斡旋カードに現時点での自己の進路希望を記入させ、個に応じた指導に活かすために担当者が管理した。エントリーシート・履歴書等の作成、保護者会における指導・相談体制の説明、就職ガイダンス（一斉指導）等を展開し、特に就職ガイダンスでは、就職活動の心構え・マナー、業界・業種に関する調査や理

解の促しを学科別に指導した。また、求人票の送付依頼、求人先の開拓、求人票や企業情報の収集整理、合同企業説明会等の情報収集と掲示、相談に訪れた学生に対する個別の指導・対応を行った。特に、こども学科では教育・保育実習との関連を生かし、各職種・領域についての情報を収集し、適宜、対応を図るために、就職委員の専門性に応じて、企業・公務員・学校教員・幼稚園教諭・保育士・施設職員等各領域の指導担当を割り当てた。乳幼児保育学科第二部では、少人数であるために、各人への個別指導を中心にしながら随時必要に応じて願書の作成や試験対策を行った。

#### ④ 就職関連諸会合への参加

平成 21 年度も各地で行われる就職関係の情報交換会や連絡調整会等に、就職事務担当者をはじめ、専任教員が参加した。これによってこども学科および乳幼児保育学科第二部では、隣接県の私立保育所・幼稚園連盟等と連携し、試験時期や方式はもとより、保育現場で求められる人間像や専門的な資質を把握し、それに応える人材育成に力を注ぐことができた。これらのことから、両学科とも早期に就職が決定するなど、学生にとって安心して修了の時期を迎えることができた。統一試験や面接等を設けている地域の、就活の期間は限られており、実習や諸行事等の予定も考慮しながら今後一層、学生の積極的な取り組みを促す計画を講じていく必要があると考える。また、各機関との連携をより密にし、本学の特色と行き届いた指導の良さを出せるよう就職支援を展開しなければならないと考える。

## (2) 平成 21 年度就職状況

### ① 就職内定状況

○ 平成 21 年度卒業生進路一覧

(平成 22 年 3 月 31 日現在・単位：人)

	こども学科		乳幼児保育学科	合計	
	乳幼児保育コース	こども学コース			
学生数	79	7	6	92	
就職希望者数	68	4	5	77	
就職決定者	小学校教諭	—	—	0	
	幼稚園教諭	36	2	38	
	保育士	28	—	3	31
	その他の施設	3	0	3	6
	司書	0	0	0	0
	企業	1	0	0	1
未決定者	1	0	0	1	
進学者	1	1	0	2	
その他	8	4	1	13	

② 就職内定先等内訳及び内定先一覧

	就職内定先			
小学校	なし			
幼稚園	大利根藤幼稚園 大袋幼稚園 大袋わかば幼稚園 興善寺幼稚園 久喜幼稚園 まつざわ幼稚園 まつたけ幼稚園 箕田幼稚園 森の詩幼稚園	鴻巣幼稚園 越谷こぼと幼稚園 境杉の子幼稚園 桜田幼稚園 幸手さくら幼稚園 春山幼稚園 東別所幼稚園 ひがし幼稚園 吉川ムサシノ幼稚園	総和文化幼稚園 古河文化幼稚園 幸手しらゆり幼稚園 杉戸白百合幼稚園 草加ひので幼稚園 染谷幼稚園 建福寺幼稚園 吹上中央幼稚園	玉岡堯瞬幼稚園 西川口幼稚園 野田北部幼稚園 花咲幼稚園 羽川幼稚園 みづほ幼稚園 明和幼稚園 富士幼稚園
保育所	愛隣保育園 魚沼市なかよし保育園 小山西保育園 白河市立ふたば保育園 ハートフルナーサリー 中央たんぼぼ保育園 緑の森保育園 若葉保育園	清恵保育園 牛沢保育園 きむら保育園 そらいろ保育園 花園第二保育園 さくら保育園 新里保育園 信愛保育園	あさひ保育園 おおたけ保育園 くわのみ保育園 太陽の里コムト保育園 柊保育園 まつざわ保育園 もとの木保育園 ルンビニ保育園	深谷エンゼル保育園 ホザナ保育園 ルンビニ保育園 いずみ保育園 東浦和みどり保育園 ルミエール保育園 諸川保育園
施設等	児童養護施設ふれんど 元気っ子クラブ こどもの森エンゼルドーム（児童館）	光の家療育センター にしき学童	小山学童の会 行田市特別支援担当	元気っ子クラブ 深谷市立学童保育所
企業	わかば歯科医院			

(3) 成果と課題（点検・評価）

個別の指導を繰り返し行い、就職希望者のほとんどが無事就職することができた。就職ガイダンスへの参加状況や就職支援室への来訪状況を把握しながら声掛けを行い、学生の動向を把握していたが、中には、年度末にさえ進路決定ができない学生もいた。就職先を選択する段階に自身の将来像がつかめない、また、2年間の学習の中でつかみ得なかったケースである。今後、学年や担任との緊密な連携を図り、学生の意欲を促し、将来像を描き得るような指導を工夫する必要があると考える。そのためには、学生と教職員との関わりを一層大切にしつつ、関わりやすさの条件をも工夫する必要があると考える。

## 2 進学

### (1) 編入学

本学卒業後、4年制大学に編入学を希望する学生がおり、それらの学生たちは、本学で取得できる免許状（小学校教諭・幼稚園教諭）がそれぞれ二種免許状であるため、一種免許状を取得して、将来、教員採用試験に臨むことや、また、さらに教育や子どもについての学問を深めたいと考えている。これに対し、就職委員会及び就職事務担当者によって、編入学の説明を行い個別に指導・対応している。

○ 平成21年度編入学先一覧

法政大学（キャリアデザイン学部）：1名、東京未来大学（こども心理学部通信教育課程）1名
---

### (2) その他の進学

本学で、卒業後、引き続き免許・資格を取得するために科目等履修生として入学を希望する学生についても、就職委員会及び就職事務担当者によって、編入学の説明会を行い個別に対応している。

○ 平成21年度進学先一覧

埼玉純真短期大学（科目等履修生）：2名
---------------------

### (3) 成果と課題（点検・評価）

より高い専門性を身に付けた保育者・教育者を目指す学生が、進学を希望していることは言うまでもない。しかし、四年制大進学のために必要とされる日々の学習内容と、本学での学習内容とは自ずと違いもあり、当初の目的意識を常に明確にさせ、励まし、個々の取組を支えていく適切な指導や情報提供が必要であると考えます。学生の前向きな姿勢と家族の協力や賛同を踏まえた将来を見据えた進路相談のあり方を一層工夫する必要がある。

## 3 卒業生への支援

本学では、前年度の卒業生に対し「ホーム・カミング・デー」を開催している。

平成21年度は、8月に2回（8月1日・29日）開催され、会食やゲームを楽しみながら、教職員との交流を図り情報交換を行った。卒業生から寄せられる様々な話は貴重な学生指導の情報として学生支援に役立てている。最近の特徴として、保育職に見られる早期の離

職のケースを考えると、こうした機会のほかにも、卒業生が初任期を無事に乗り越えていくための支援体制（現職者、初任者のための相談事業）等を工夫する必要があると考える。



## VI 教員の研究活動及び社会的活動

### 1 研究活動

#### (1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

#### (2) 専任教員の研究業績

##### ① こども学科

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
青木 万里	<p>【執筆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己理解尺度の作成とその有効性の検討」 単著 学生相談研究第 30 巻 1 号 35～46 頁</li> <li>・「意欲がわからないと訴えて来室した学生への森田療法的アプローチ」 単著 日本森田療法学会雑誌第 20 巻 2 号 201～208 頁</li> <li>・「自己理解研究 自己-他者理解プログラムの分析を通して」 単著 國學院大學紀要第 48 巻 1～15 頁</li> <li>・「発達のための臨床心理学」 共著 保育出版 第 2 章 2 節 発達の傾向と課題 21～24 頁</li> </ul> <p>【研究発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生の自己理解を深める試みー3」 共同発表 日本心理臨床学会第 28 回大会 基礎・調査研究発表 場所：東京国際フォーラム</li> <li>・「森田療法理論に基づいた体験学習の効果」 単独発表 日本森田療法学会第 27 回大会 研究発表 場所：関西国際大学</li> </ul>
安部 孝	<p>【執筆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第 8 章 認定こども園の教育課程・保育課程」 共著 「教育課程・保育課程総論」 同文書院</li> <li>・「第 6 章 1 節 発達 と学びの連続性をふまえた幼稚園教育」 共著 「保育内容・保育方法 総論の理論と活用」 保育出版社</li> <li>・「思いやりの精神の育成に関する教育学的考察 ー仏教思想からの視座ー」 単著 東京学芸大学大学院修士課程</li> </ul>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>・「保育実践力の育成に関する考察 2 - 「理想の保育者像」の獲得」 共著 埼玉純真短期大学研究論文集第 3 号</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>・「短期大学生が抱く保育者像に関する考察(1)～保育者の資質への気付きを図る～ 共同 日本保育学会第 62 回大会 場所：千葉大学</p> <p>・「保育者養成における『心の教育』の試み 2」一心のあり方のとらえ方についての考察を通してー 単独（口頭発表）日本教育学会第 45 回大会 場所：東京大学</p> <p>・「気付きを生かした『こころの教育』の展開 I」 単独 日本保育士養成協議会第 48 回研究大会 場所：東北福祉大学</p> <p>・「〈生活者〉としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開（3）」～理想に向けた学生の取り組みについて～ 単独 日本教育方法学会第 45 回大会 場所：香川大学</p>
<p>安倍 大輔</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <p>・「運動部活動の現状と今日的課題」（単著）国土社、『教育』6月号</p> <p>・「子どものいのちと健康を取り巻く危機を脱するためにー報道から見る子どものいのちと健康をめぐるこの1年ー」（単著）草土文化、日本子どもを守る会編『子ども白書 2009』</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>・「福祉文化における子どもスポーツ研究についての考察」 日本福祉文化学会第 20 回東京大会 於：早稲田大学国際会議場</p>
<p>井筒 紫乃</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <p>・「第 24 回全国小学生陸上競技交流大会に出場した優秀選手の身体的・心理的側面について（その 3）」 共著 陸上競技研究紀要 Vol.5 p.9-18</p> <p>・「子どもの運動発達」 単著 埼玉教育 No.731 p44-45</p> <p>・「ありそうでなかったマラソンの教科書」共著 第 4 章（2.3）ランナーズ</p>
<p>入江 良英</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <p>・「特別支援保育における『新感覚等合法』の可能性」 単著 埼玉純真短期大学研究論文集第 3 号</p> <p>・「新感覚統合論」 pp.158-167 講演集 2『軽度発達障害の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム』所収</p> <p>・日本社会病理学会第 25 回大会 自由報告 I（第 1 分科会）のまとめ 日本社会病理学会第 25 回大会 news letter</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>・日本社会病理学会第 25 回大会 自由報告 I（第 1 分科会）司会 於 国学院大学</p> <p>・社会人の学び直しプログラム 特別講座 「新感覚統合療法」 於 熊谷市大里生涯学習センター</p>
<p>浦 由希子</p>	<p><b>【研究発表】</b></p> <p>・「読み障害児に対する指導法の検討ー意味（語彙）の側面からー」 共同 日本コミュニケーション障害学会第 35 回学術講演会、於：長岡ハイブ</p>

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>木許 隆</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現」 共著 圭文社 監修・編著</li> <li>・「小学校教諭・保育士をめざす 子どもの表現活動に役立つピアノテクニック」 共著 圭文社 監修・編著</li> </ul> <p><b>【作曲作品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読と女声合唱のための組曲「メッセージ」 単著</li> </ul> <p><b>【研究発表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生の音楽における基礎知識 ー第二部・第三部の授業を通してー」全国大学音楽教育学会第25回全国（佐賀）大会</li> <li>・「学生自ら学ぶ意欲を持つために - 「総合演習」における試み -」全国保育士養成協議会第48回研究大会</li> </ul>
<p>草信 和世</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅰ部「わたし」をつくることばを考える 1章「生きる力」としてのことば 4節ことばを育む環境とは何か 『子どもの育ちと「ことば』』（仮）松川利広監修 横川真貴子編著 保育出版社</li> <li>・Ⅲ遊びと言葉 第7章伝承遊びと遊びうた 『保育士養成のための必須科目シリーズ 保育内容「言葉』』（仮）谷田貝公昭監修 中野由美子・神戸洋子編著 一藝社</li> <li>・「現代における保育者の専門性に関する一考察（4）」 埼玉純真短期大学研究論文集第3号</li> <li>・「聴覚に障害を持つ学生の幼稚園教育実習における子どもとのかかわり」 埼玉純真短期大学研究論文集第3号</li> </ul> <p><b>【研究発表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「短期大学生が抱く保育者像に関する考察（1）～保育者の資質への気付きを図る」 共同 日本保育学会第62回大会 千葉大学</li> <li>・「現代における保育学生の養成に関する一考察～「私」から「私たち」へ～」 単独 保育士養成協議会第48回研究大会 東北福祉大学</li> </ul>

### ② 乳幼児保育学科第二部

#### ○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
<p>小澤 和恵</p>	<p><b>【執筆】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「統合保育における発達障害児のコミュニケーション促進をめざす音楽活動 ー音楽療法的視点から有効性を探るー」 単著 聖徳大学大学院</li> </ul>

### （3）専任教員の所属学会

#### ① こども学科

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

### ○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
藤田 利久	National Business Education Association・日本環境教育学会・日本秘書教育学会・秘書サービス接遇教育学会・日本キャリアデザイン学会
青木 万里	日本心理臨床学会・日本学生相談学会・日本森田療法学会
安部 孝	日本教育評価研究会・日本保育学会・日本教育方法学会・日本教育学会・日本教師教育学会・日本道德教育学会・身延山大学仏教学会
安倍 大輔	日本体育学会・日本スポーツ社会学会・日本福祉文化学会・日本子ども社会学会
井筒 紫乃	日本体育学会・ランニング学会・幼児体育学会・こども環境学会・日本発育発達学会
入江 良英	日本特殊教育学会・アメリカ教育学会・日本社会学史学会・早稲田社会学会 日本社会病理学会・日本発達障害学会・日本教育社会学会
牛込 彰彦	日本神経科学学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
浦 由希子	日本 LD 学会・日本コミュニケーション障害学会・National Student Speech Language Hearing Association・日本特殊教育学会
木許 隆	全国大学音楽教育学会・日本音楽表現学会・日本管打吹奏楽学会
草信 和世	日本保育学会・日本教育方法学会

### ② 乳幼児保育学科第二部

#### ○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会・日本ダルクローズ音楽教育学会

## 2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

### (1) 講師・助言者等の実施状況

#### ① こども学科

VI 教員の研究活動及び社会的活動

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
青木 万里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉純真短期大学オープンキャンパス講師（高校3年生保護者対象：「青年期－カウンセラーの立場から－」担当）</li> <li>・埼玉県行田市保幼小連絡協議会教育研修会講師（保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・保護者対象：「コミュニケーション能力をつけるには」担当）</li> <li>・埼玉県市町村指導主事会教育相談部会研修会講師（埼玉県市町村指導主事会教育相談担当指導主事・加須市教育研究会教育相談部会教職員対象：「教育相談において求められる知識と技法」担当）</li> </ul>
安部 孝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度羽生市保育連絡協議会総会保育講演会講師（「保育所保育指針について」～新しい展望の向こう側／変わらないもの～）</li> <li>・平成21年度羽生市保育連絡協議会研修会講師（「保育所保育指針について2」～具体的な課題へ～「1回性」「つながり」「責任」）</li> <li>・平成21年度教員免許更新予備講習にて社会科の講師／認定番号：平21-35071-58395号 「《問い》がたてられること」「《振り返り》という活動」</li> <li>・埼玉県立鷲宮高等学校2年生対象模擬授業（進路講演）</li> <li>・埼玉県川口市立川口総合高等学校2年生対象模擬授業（子どもをとらえる目）</li> <li>・茨城県立境高等学校3年生対象進路面接指導</li> <li>・埼玉県立鷲宮高等学校2年生対象模擬授業（進路講演）</li> <li>・埼玉県川口市立川口総合高等学校2年生対象模擬授業（子どもをとらえる目）</li> <li>・茨城県立境高等学校3年生対象進路面接指導</li> <li>・埼玉純真短期大学主催：夏期講座（地域開放・一般・現職）にて講座担当 テーマ：「よいところ探しの関係作り ～不登校解消の事例から～」</li> <li>・埼玉純真短期大学主催：夏期講座（地域開放・高校生）にて講座担当 テーマ：「子どもの世界をのぞいてみよう！」</li> <li>・埼玉純真短期大学プレカレッジにて講座担当 テーマ：「先生になるために（保育者・教育者の仕事）」</li> <li>・平成21年度第8回北埼玉地区人権教育研究集会にて講演と助言「第2分科会『障がい者の人権』」テーマ：「子どもたちへの指導のあり方～思いに近づくために～」</li> <li>・愛子幼稚園（仙台市）にて教員研修（園内研究の指導助言）</li> <li>・愛子幼稚園（仙台市）にて教員研修（園内研究の指導助言）</li> </ul>
安倍 大輔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本子どもを守る会編『子ども白書2009』編集協力スタッフ</li> <li>・日本福祉文化学会第20回東京大会実行委員</li> <li>・日本福祉文化学会広報委員</li> <li>・駒西特別支援学校ボランティア研修会講師「発達障害の理解と対応」</li> <li>・誠和福祉高校せいわキッズ講師「親子体操・レクリエーション」</li> <li>・浅井えり子ランニングクリニック講師</li> </ul>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽生市スポーツ少年団認定員再研修講師</li> <li>・羽生市スポーツ少年団認定員養成講習会講師</li> </ul>
井筒 紫乃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野マラソンランニングクリニック講師 長野マラソン大会主催事務局 長野ビックハット</li> <li>・埼玉純真短期大学 GP 「発育発達と身体運動」講師 埼玉純真短期大学 熊谷市・行田市</li> <li>・「子どもの運動発達」講師 羽生市子育て支援推進協議会研修会</li> <li>・「小学生の持久走」講師 全国小学生陸上競技指導者中央研修会（財）日本陸上競技連盟 広島スポーツ会館</li> <li>・U-18 陸上競技教室講師 日本陸上競技連盟・愛媛県陸上競技協会 愛媛県ニンジニア陸上競技場</li> <li>・「トレーニング科学」「発育発達とスポーツ」講師 スポーツ少年団認定員養成講習会 日本体育協会・羽生市体育協会 ワークヒルズ羽生</li> <li>・「子どもの運動発達」講師 春日部市幼稚園教諭研修会 春日部中央公民館</li> <li>・「小学生の運動発達」講師 U-12 陸上競技教室 日本陸上競技連盟・石川県陸上競技協会 石川県西部緑地陸上競技場</li> <li>・2009年11月15日</li> <li>・「小学生の運動発達」講師 U-12 陸上競技教室 日本陸上競技連盟・青森県陸上競技協会 青森県克雪ドーム</li> <li>・「からだところの発育発達」講師 羽生市体育部会研修会 羽生市教育委員会 羽生プラザ</li> </ul>
入江 良英	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際生涯発達支援学会 設立準備会司会 於 東京家政大学</li> </ul>
牛込 彰彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度 特別教育巡回指導 埼玉県立大宮工業高等学校</li> <li>・平成21年度 特別教育巡回指導 埼玉県立福岡高等学校</li> <li>・社会人の学び直しニーズプロジェクト 「障害と脳」江南総合文化会館</li> <li>・社会人の学び直しニーズプロジェクト 「障害と脳」行田市教育文化センター</li> </ul>
木許 隆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽講習会講師 於：兵庫県姫路市・長野県長野市・岐阜県恵那市・岐阜県可児市・岐阜県中津川市・兵庫県神戸市</li> <li>・平成21年度上尾市私立幼稚園協会教職員研修会講師 於：埼玉県上尾市</li> <li>・新日本製鐵(株)名古屋製鐵所吹奏楽団第43回定期演奏会 於：愛知県知多市</li> <li>・羽生市立新郷第一小学校特別授業講師 於：埼玉県羽生市</li> <li>・埼玉県立誠和福祉高等学校特別授業講師 於：埼玉県羽生市</li> <li>・学校への芸術家等派遣事業講師 文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室 於：岐阜県大垣市・岐阜県恵那市</li> <li>・平成21年度愛知県吹奏楽コンクール（職場・一般部門） 於：愛知県幸田町</li> <li>・教員免許更新制に伴う更新講習講師 於：埼玉県羽生市</li> <li>・マーチング講習会講師 於：兵庫県姫路市・兵庫県西宮市・岐阜県中津川市</li> <li>・新日本製鐵(株)名古屋吹奏楽団ふれあいコンサート 於：愛知県名古屋</li> <li>・羽生市立新郷第一小学校学校公開日親子コンサート 於：埼玉県羽生市</li> <li>・愛知県（大・職・一）吹奏楽連盟吹奏楽フェスティバル 於：愛知県名古屋</li> </ul>

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 邑楽郡邑楽町立保育所職員研修会講師 於：群馬県邑楽郡邑楽町</li> <li>・ アンサンブル講習会講師 於：長野県長野市・兵庫県姫路市</li> <li>・ 羽生市地域振興センタークリスマスコンサート 於：埼玉県羽生市</li> <li>・ 新日本製鐵(株)名古屋吹奏楽団チャリティーコンサート 於：愛知県東海市</li> <li>・ 芸術鑑賞会コンサート 於：兵庫県三木市・兵庫県加古川市・兵庫県加古郡稲美町・兵庫県明石市</li> </ul>
--	---

### ② 乳幼児保育学科第二部

#### ○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
小澤 和恵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉純真短期大学オープンキャンパス講師（ピアノ講座）</li> <li>・ 埼玉純真短期大学公開講座講師（ピアノレッスン）</li> <li>・ 埼玉純真短期大学プレカレッジにて講座担当</li> <li>・ ゴールデンウィークイベント「子どもの歌コンサート」於：キヤッセ羽生</li> <li>・ 埼玉県立鷲宮高等学校模擬授業（進路講演）</li> <li>・ 埼玉県立白岡高等学校模擬授業（進路講演）</li> </ul>

## (2) 専任教員の諸団体への所属状況

### ① こども学科

#### ○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
藤田 利久	羽生市子育て協議会・日本秘書協会
青木 万里	東京臨床心理士会会員・関東地区学生相談研究会会員
井筒 紫乃	日本陸上競技連盟普及委員会委員・日本陸上競技連盟法制委員・日本陸上競技連盟女性委員・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員・埼玉県立誠和福祉高校評議員
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・羽生市図書館協議会・羽生市効率保育所のあり方検討委員会会長
木許 隆	東京リコーダー協会・新日本製鐵(株)名古屋製鐵所吹奏楽団音楽監督
草信 和世	児童文化研究誌舞々同人・保育研究グループはるにれ会員・羽生市社会教育委員

### ② 乳幼児保育学科第二部

#### ○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	活動
小澤 和恵	羽生市女性会議委員長

### (3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

#### ① こども学科

○ 学外兼務状況一覧

氏名	所属団体
青木 万里	國學院大學法学部非常勤講師
井筒 紫乃	工学院大学非常勤講師
木許 隆	岡崎女子短期大学幼児教育学科非常勤講師

#### ② 乳幼児保育学科第二部

平成 21 年度における乳幼児保育学科第二部専任教員の非常勤講師等の兼務は無い。

### 3 成果と課題（点検・評価）

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員は 1 年間に、著作・論文執筆・学会発表の内、最低 1 本を遂行義務としている。これら教員の研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元しているといえる。

また、本学のような地域に根ざした短期大学の任務のひとつは地域社会への貢献もあげられる。この点においても本学の教員は、学会活動はもとより地域社会における活動にも積極的に参加していることは評価に値する。

教員の研究を支える環境を考えた場合、本学が決って十分な環境を提供しているとは言い難く、今後、外部からの研究費獲得を含めて研究費の充実や研究時間の確保などを課題と捉え、研究に適した環境を整えていきたいと考える。



## Ⅶ 図書館

### 1 図書館の基本方針

本学は、設立主旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館もそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

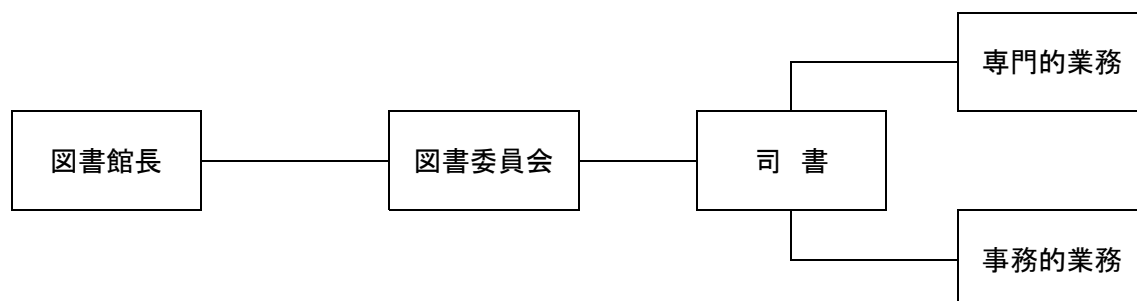
図書館では、開学以来、本学の学科構成にあわせ、英語学関連と保育・児童教育・心理学関連の資料（絵本、紙芝居などを含む）に重点を置いた収集、学生・教職員からのリクエストに応えた図書購入を行い、蔵書の充実を図ってきている。こども学科の単科に改編後は、関連する分野に特化して図書の購入を執行した。

### 2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や各学科の教育方針に即応したものにしておくため、館長をはじめ、専任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書委員会」を組織し、図書館の運営、文献の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書 2 名（専任 1 名、非常勤 1 名）があたっている。本学図書館の場合、この 2 名の図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに一般的な事務的業務を行っている。

また、火曜日と木曜日は、乳幼児保育学科第二部の学生のために開館時間の延長（17:30～19:10）を実施し、図書館司書が時差出勤することで対応している。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を、従来の手工業的な方法で

行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併用して運用している。

### 3 施設・設備と情報サービス

#### (1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 153.2 平方メートル、二階は 113.0 平方メートルである。一階は書架、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数は 47,356 冊（平成 22 年 3 月 31 日現在）である。なお、ほとんどの外国書は、101 教室の一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 40 席（閲覧机 8 台）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は 170 名（平成 21 年 10 月 1 日現在）である。学生一人あたりの蔵書数は 279 冊、年間受入冊数は 2.4 冊である。この数値を（社）日本図書館協会が毎年調査し刊行している「日本の図書館」（2009 年版）に掲載されている平均値と比較すると、全国の大学図書館の蔵書数では 279 : 84、短期大学図書館に限っても 279 : 115 となり、いずれも本学の図書館が大きく上回っている。

#### (2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査で来館した学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探し当てたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、書名目録・著者名目録等のカード目録での調査を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室に持参して利用してもらう。

### ① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館事務室またはカウンターに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

### ② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数と期限は、10冊・2週間にして、保育実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。教職員への期限は1ヵ月としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

### ③ 視聴覚資料

図書館サービスの情報源は、主に図書や雑誌であるが、ビデオテープ、DVD、CD-ROMなどの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な資料を購入して利用に供している。また、図書館情報学分野の資料も購入して、司書・司書教諭課程の授業の補助手段として利用している。

二階閲覧室には、DVD・CD／ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープの視聴が可能である。

### ④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム(Simple-OPAC:OPAC社)を活用し、正規のMARC(Machine Readable Cataloging = 機械可読目録)ではないが、利用者サービスの向上を図ることができた。

今後は、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを利用することで、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。この学術情報システムは、国内の高等教育機関の図書館における導入増加の傾向をみると、将来の課題であると思われる。

また、共同分担目録システムを導入できれば、書誌レコードの流用ができ、作業を省力化できるメリットもある。

## 4 所蔵点数と年間受入状況

### (1) 所蔵点数

#### ① 蔵書数

蔵書の数は先述したように、平成 22 年 3 月 31 日現在で、45,443 冊である。そのうち和書は 40,650 冊、外国書は 4,793 冊である。

#### ② 学術雑誌所蔵数

所蔵している学術雑誌のタイトル数（平成 21 年度）は次のとおりである。なお、一般雑誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌：79 点	外国雑誌：14 点
----------	-----------

#### ③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成 22 年 3 月 31 日現在）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：1,913 点	
内 訳	
DVD	290 点
ビデオテープ	986 点
カセットテープ	263 点
CD	264 点
CD-ROM	75 点
スライド	35 点

#### ④ 除籍数

平成 21 年度は、蔵書の除籍を実施していない。

### (2) 年間受入状況

平成 21 年度の資料別受入状況は、図書 390 冊、視聴覚資料 22 点で、合計 412 件である。これを学生 1 人あたりの受入件数で算出すると、約 2.4 件（受入件数／学生数）となる。

## VII 図書館

○ 受入状況の内訳（平成 21 年度）

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 390 冊	
	和 書	390 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 22 点	
	DVD	21 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	1 点
	CD-ROM	0 点
	カセットテープ	0 点
図書+視聴覚資料	合計 412 件	

## 5 利用状況

### (1) 入館者数

平成 21 年度の年間入館者数は 5,708 人（教職員 1,415 人、学生 4,293 人）、1 日平均入館者数は 28.1 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 25 回（年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館者数と利用率は次のとおりである。

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科		乳幼児保育学科第二部	
	人数	回数	人数	回数
1 年	1,646 人	21.3 回	—	—
2 年	2,458 人	28.2 回	—	—
3 年	—	—	185 人	30.8 回

### (2) 館外貸出

館外貸出については、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習の場合は特別長期貸出を認めている。

## Ⅶ 図書館

○ 学生所属別貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科	乳幼児保育学科第二部
1年	616冊（8.0冊）	—
2年	1,791冊（20.5冊）	—
3年	—	279冊（46.5冊）

平成21年度の教職員の館外貸出冊数は、873冊である。

### （3） その他の業務

#### ① 参考業務

平成21年度のレファレンス受付数は、179件である。

#### ② 文献複写

館内に設置しているコピー機の平成21年度の利用は、次のとおりである。

○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人数	枚数
学内文献複写	98人	1,442枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第31条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

#### ③ 相互利用

平成21年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

○ 相互利用の受付・依頼件数

	受付	依頼
文献複写	5件	6件
現物貸借	0件	1件

## 6 研究紀要

### （1） 埼玉純真短期大学研究論文集

#### ① 第2号

平成20年9月に原稿募集を行い、その結果9件の原稿が集まり、250部（抜刷り30部

×9名)を平成21年3月31日に刊行した。

## ② 第3号

平成21年9月に原稿募集を行い、その結果9件の原稿が集まり、200部(抜刷り30部×9名)を平成22年3月31日に刊行した。なお、掲載している論文について、第1号より、電子媒体でも公開しているため、今号より冊子体の印刷部数を減らした。

## 7 成果と課題(点検・評価)

図書館資料の退出希望者への館外貸し出しは、平成20年度まで原則として5冊で対応していたが学生からの要望もあり、平成21年度より10冊での対応とした。長期の実習に対し、貸出冊数の増加は利用者サービスに応えるものとなった。また、学生からのリクエストも選書時、毎回の希望があり利用者ニーズを反映した資料の収集となった。

図書資料の一括管理化に対しては、学内に散在していた館内資料を回収し、図書館内に整理し配架した。今まで各研究室に散在し相互利用に困難を伴う状況であったが解消した。難しい環境であったが、館内で一括管理することにより利便性が向上した。

環境面では、館内床面をビニールクロスからタイルカーペットへ変更し、静音性を高める事ができた。

ホームページの改善により、ホームページ上から蔵書検索システム(Simple-OPAC)へアクセスすることが可能になり利便性が向上した。また、同様に論文情報ナビゲータ(CiNii)から研究論文集に収録されている論文等を閲覧できるようになった。

今後は、環境面では書架増設や冷暖房設備の改善などが挙げられる。また、予算面では図書と雑誌の予算配分の再検討が必要である。

## Ⅷ 校地・施設・設備

### 1 校地及び校舎面積

#### (1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(9,125 m<sup>2</sup>)の約3.83倍の広さを有する34,969.5 m<sup>2</sup>、そこに校舎は6,530.2 m<sup>2</sup>、運動場8,058.98 m<sup>2</sup>、緑地7,730.81 m<sup>2</sup>がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)、プール(25m・4コース)、テニスコート(3面)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(96台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側にはテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。校内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫があり、またクラブ活動のための部室がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,969.50 m <sup>2</sup>
校舎	6,539.20 m <sup>2</sup>
運動場	8,058.98 m <sup>2</sup>
緑地	7,730.81 m <sup>2</sup>

#### (2) 成果と課題(点検・評価)

短期大学設置基準による必要面積は、収容定員より算出すると校舎が5,500 m<sup>2</sup>であり、校地が9,125 m<sup>2</sup>である。本学の校地、および校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して1.19倍、校地は3.83倍の面積を有し、校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、余裕のある校地を有している点の特徴的である。基準値よりも広い校地の活用について地方の大学ということで、一部を学生が余裕をもって使用できるよう学生専用駐車場としての拡張をはかった。以前よりも、多くの学生が利用できるようになった。

大学周辺は、徐々に開発の動きが見られてきた。ただ、開発の動きにはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時が止まったような安らぎを得ることが出来る。そうい



った意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の 20%を占める現状からも、情操環境としては貴重かつ最適であると自負できる。これらの状況を活用し、調和のとれた設計を進めていく必要があるだろう。

## 2 施設及び設備

### (1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟には事務室・学長室・応接室・会議室・保健室・非常勤講師室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1.2 階部分は図書館、3 階・4 階は教員研究室、5 階は役員室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一 5 階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2 階建ての学習棟は、普通教室、LL 教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室 (20 室)、実習指導室、学生相談室、パソコン開放室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口にはラウンジが設けられ、連絡事項伝達のための掲示板と自販機が設置されている。

学習棟の東側に位置する 3 階建ての研修棟は、1 階部分が学生食堂、売店、絵画工作室、理科・社会実験室、陶芸室、2 階部分が普通教室、中講義室、3 階部分が普通教室、パソコン教室、和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,458.77 ㎡
研修棟	3	1,772.66 ㎡
研究棟	5	766.29 ㎡
管理棟	1	641.49 ㎡
体育館	1	933.70 ㎡

校舎延床面積合計	6,572.91 ㎡
----------	------------

### (2) 保守・管理体制

平成 21 年度に実施した保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消化器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物 (地下タンク)、電話交換機、ピアノ調律等。

### (3) 成果と課題(点検・評価)

1・2階低層階の棟がほとんどを占めるが、校地面積が広いこともあって、校舎面積も短期大学設置基準(5,500㎡)をクリアしている。今年度は、ピアノ教室のピアノ21台を新規購入し古いピアノと入れ替えを行った。また、学習環境の整備として学習棟・管理棟の床張り替え工事、図書館の床張り替え工事、トイレ改修工事、206教室の床張り替え工事などを施工した。今後も中長期的に環境整備計画を査定し環境改善と設備充実を図らねばならない。

本学の施設設備の保守・管理体制については、学生の身体の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に適った業者により滞り無く点検を実施しているところであるが、設備の老朽化などによって安全が損なわれぬよう日常の強化を含め、今後ともより安全性の確保できる体制と方策を追求していく姿勢が求められよう。校舎内の不審者への対応としては、今年度も用務員2名を不審者への対応及び校舎の美化、屋内清掃、芝生除草などを担当させることとした。

また、より合理的で迅速に機能する安全管理の体制が敷かれるよう消防署、警察署など関連機関との連携をはかり、協力を仰ぎながら、さらなる学生の安全確保に果敢に取り組んでいく必要がある。

### 3 学内見取図

VIII 校地・施設・設備

VIII 校地・施設・設備

VIII 校地・施設・設備

## Ⅸ 教授会・委員会等

### 1 教授会

#### (1) 教授会

##### ① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
臨時教授会 平成 21 年 4 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績認定・学籍異動・科目履修方法</li> <li>・平成 21 年度オリエンテーション配布資料</li> <li>・総合演習コース</li> <li>・他大学で修得した単位の読み換え</li> <li>・入学式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度「社会人の学び直しニ ーズ対応教育推進プログラム」事業計画</li> </ul>
臨時教授会 平成 21 年 5 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会における読み替え科目</li> <li>・こども学科 2 年生及び乳幼児保育学科第二 部 3 年生の保護者会開催</li> <li>・「平成 21 年度年間予定表」及び「補講申請 のお知らせ」</li> <li>・平成 21 年度幼稚園実習 実習審査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第 1 回定例教授会 平成 21 年 5 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度前期時間割表の変更</li> <li>・平成 21 年度集中講義日程（司書・司書教 諭科目及びその他科目）</li> <li>・平成 21 年度前期試験実施計画</li> <li>・平成 20 年度後期授業評価アンケート結果 に対するコメント</li> <li>・平成 21 年度 保育所実習 実習審査（前・ 後半）</li> <li>・埼玉純真短期大学外部評価委員会規則</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
臨時教授会 平成 21 年 6 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程，規則の制定</li> </ul>	
第 2 回定例教授会 平成 21 年 6 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度集中講義日程（案）</li> <li>・平成 21 年度こども学科科目履修方法の訂 正</li> <li>・平成 21 年度前期試験時間割表（案）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> <li>・平成 21 年度埼玉県私立短期大学協 会教職員研修実施要領</li> <li>・「まなびピア埼玉 2009」への対応</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験監督上の留意点・試験での留意点</li> <li>・平成 20 年度科目等履修生の継続</li> <li>・第 4 回オープンキャンパス実施要領（案）</li> <li>・入学金減免規程（案）</li> </ul>	
<p>第 3 回定例教授会 平成 21 年 7 月 22 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期時間割</li> <li>・集中講義を受けられない学生の対応について(体育大会等)</li> <li>・ボランティア・教職実践演習</li> <li>・純真祭での授業科目読み替え</li> <li>・介護等体験実習審査（こども学コース）</li> <li>・第 5 回オープンキャンパス・AO 予備面談実施要領（案）・各種規程，規則の制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>臨時教授会 平成 21 年 9 月 2 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度後期時間割</li> <li>・「総合演習 I」の選択方法</li> <li>・埼玉純真短期大学研究論文集規程（修正案）</li> <li>・第 6 回オープンキャンパス・AO 予備面談実施要領（案）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> <li>・高校訪問</li> </ul>
<p>第 4 回定例教授会 平成 21 年 9 月 16 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動・学納金未納者</li> <li>・後期履修登録スケジュール</li> <li>・総合演習時の PC 室の利用方法</li> <li>・「総合演習 I」・教員免許説明会</li> <li>・純真祭読替希望</li> <li>・定期試験受験無資格者への対応</li> <li>・同意書未提出者意思確認・表現発表会</li> <li>・埼玉純真短期大学研究論文集投稿内規の改正（案）・実習におけるインフルエンザ対応</li> <li>・実習における危機管理</li> <li>・幼稚園後半実習 実習審査(乳幼児保育コース 2 年)</li> <li>・小学校実習 実習審査（こども学コース 2 年）・AO 入学（I 期）試験実施要領（案）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>臨時教授会 平成 21 年 9 月 19 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO 入学（I 期）試験合否判定</li> </ul>	
<p>臨時教授会 平成 21 年 10 月 10 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO 入学（II 期）試験合否判定</li> </ul>	
<p>第 5 回定例教授会 平成 21 年 10 月 21 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・2010 年度指定校推薦・一般推薦・専門・総</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>



## IX 教授会・委員会等

	合学科等推薦（Ⅰ期）入学試験実施要領（案）	
臨時教授会 平成 21 年 10 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績認定</li> <li>・学籍異動</li> </ul>	・各委員会からの報告
臨時教授会 平成 21 年 10 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010 年度指定校推薦・一般推薦（Ⅰ期）入学試験合否判定・ブレカレッジ日程・純真祭</li> </ul>	・各委員会からの報告
第 6 回定例教授会 平成 21 年 11 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動・成績追加認定</li> <li>・平成 21 年度後期試験実施計画（案）・試験での留意点（案）・試験監督上の留意点・評価表の表記方法・表現発表会参加希望団体</li> <li>・平成 22 年度年間予定表（案）</li> <li>・11 月 22 日（日）の保護者会</li> <li>・平成 21 年度施設実習 実習審査（乳幼児保育コース 1 年）</li> <li>・平成 21 年度介護等体験 実習審査（こども学コース 2 年）</li> <li>・AO 入学（Ⅲ期）試験実施要領（案）</li> <li>・2010 年度 一般推薦・専門・総合学科（Ⅱ期）推薦入試，社会人（Ⅰ期）入試実施要領（案）（入試委員会）</li> </ul>	・各委員会からの報告
臨時教授会 平成 21 年 12 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度（2010 年度）年間予定表</li> <li>・総合演習の発表会</li> <li>・2010 年度教職員担当委員会</li> <li>・埼玉純真短期大学非常勤講師の給与等に関する内規（案）</li> <li>・埼玉純真短期大学保護者会規則（試案）</li> <li>・平成 23 年度 指定校特別推薦入試（案）</li> <li>・平成 23 年度 同窓会（秋桜会）推薦入試（案）</li> </ul>	・各委員会からの報告
第 7 回定例教授会 平成 21 年 12 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度後期試験時間割表（案），平成 21 年度後期補講及び試験期間に施設実習がかかる学生の対応</li> <li>・平成 22 年度科目等履修生募集要項（案）</li> <li>・科目不合格の確認及び指導、それにより一括申請ができない学生の報告、及び未納者への資格申請に関する指導</li> <li>・AO 入学（Ⅲ期）試験合否判定</li> <li>・平成 22 年度一般推薦，専門・総合学科等推薦（Ⅱ期）入学試験，社会人（Ⅰ期）入学</li> </ul>	・各委員会からの報告

## IX 教授会・委員会等

	<p>試験実施要領（案）・指定校推薦入試合否判定</p> <p>・乳幼児保育学科第二部廃科に伴う学則改正, こども学科入学定員の減員</p>	
<p>第8回定例教授会 平成22年1月20日</p>	<p>・平成21年度全国保育士養成協議会会長表彰者及び社団法人全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰者推薦</p> <p>・平成22年度科目等履修生募集要項（案）</p> <p>・科目不合格の確認及び指導、それにより一括申請ができない学生の報告、及び未納者への資格申請に関する指導</p> <p>・AO入学（Ⅲ期）試験合否判定</p> <p>・平成22年度一般推薦、専門・総合学科等推薦（Ⅱ期）入学試験、社会人（Ⅰ期）入学試験実施要領（案）</p> <p>・乳幼児保育学科第二部廃科に伴う学則改正, こども学科入学定員の減員</p>	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第9回定例教授会 平成22年2月17日</p>	<p>・平成22年度年間予定表（案）</p> <p>・平成22年度前期時間割表（案）</p> <p>・平成22年度オリエンテーション日程（案）</p> <p>・TOEIC成績配布・純真祭の協賛</p> <p>・2010年度一般（Ⅰ期）入学試験合否判定</p> <p>・2010年度一般・社会人（Ⅱ期）入試実施要領（案）・各種規程の改正</p>	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>臨時教授会 平成22年2月26日</p>	<p>・平成21年度後期成績認定（卒業年次生／科目等履修生）</p> <p>・平成21年度卒業認定及び学位取得認定</p> <p>・平成21年度免許・資格取得認定</p>	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第10回定例教授会 平成22年3月10日</p>	<p>・科目等履修生成績認定</p> <p>・2010年度一般（Ⅱ期）入学試験合否判定</p> <p>・第26回卒業式進行および役割分担（案）</p>	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>臨時教授会 平成22年3月24日</p>	<p>・AO入学（Ⅳ期）試験合否判定</p> <p>・平成22年度科目等履修生審査実施要領</p> <p>・成績認定・第28回入学式</p> <p>・平成22年度オリエンテーション</p> <p>・平成22年度学外研修日程と担当（案）</p> <p>・平成22年度前期時間割表（案）</p> <p>・履修登録</p>	<p>・各委員会からの報告</p>

## ② 成果と課題（点検・評価）

教授会は、「学則第 43 条」に則り、教授・准教授・専任講師・助教で構成した。これは、本学が「こども学科」単科であり、専任教員も少人数（教授が 3 名）であることが理由である。

多くの教授会では報告会的あるいは感情的な意見になりがちである。それを避け、本学の教授会は、全員が参画意識と当事者意識を持って運営していくべく、それぞれに意見や感想を交換する場となるようにした。それぞれが自覚を持って教授会に臨んだ結果、意思疎通が図れ、意見の一致にも至ったと思われる。このようにして、教授会は、概ね順調に運営されたと感じている。

今後の課題としては、委員会からの議題が現状に対する対処・対応策になりがちであるので、今後は、授業の在り方や指導などの授業の質の向上、地域貢献など、本学の未来を見据えての建設的議題を討論の場に上げていかなければならないと考える。

## （2） 人事

### ① 採用

氏名	職位	採用日
安倍 大輔	こども学科講師	平成 21 年 4 月 1 日
村田 文生	こども学科特任教授	平成 21 年 4 月 1 日
濱野 哲也	事務長	平成 21 年 4 月 1 日
高橋 努	こども学科特任講師	平成 21 年 9 月 1 日

### ② 退職

氏名	職位	退職日
裊 珉卿	こども学科講師	平成 21 年 9 月 30 日
井筒 紫乃	こども学科准教授	平成 22 年 3 月 31 日
青木 万里	こども学科講師	平成 22 年 3 月 31 日
草信 和世	こども学科講師	平成 22 年 3 月 31 日

## （3） 成果と課題（点検・評価）

平成 18 年後半から学園改革の一環としての人事改革の余波を受け、多くの教職員が退職し、平成 20 年度を迎えた。平成 20 年度より、教職員が安心して、学生教育や研究活動に力を発揮できるような職場環境を作るように努めた。まこの結果、平成 21 年度はかなり落ち着いた教授会運営が行われた。

特に、本学の環境にも慣れた平成 20 年度入職の新任教員も 2 年目を迎え、新しい風を吹き込んだ。それは、積極的で行動的な職場環境を作り、地域社会へ各種委員や講習会講師

などとしても積極的に参加した。

これは、地域貢献を使命のひとつに掲げる本学本来の姿をより一層明確にした感がある。このような中で、「社会人学び直しプログラム」を通しての「発達障害の理解」など新規事業への取り組みも全教員が協力的に取り組んでいったことは評価に値する。

これら新任教員の謙虚さを基本にした積極的な気持ちと行動を、どれだけ採り入れ、既存の考え方や方法と融合させ、どれだけ長く維持できるかが、教授会をよどみのないものとし、将来において大きな発展を本学に導くものとする。

## 2 委員会

### (1) 教務委員会

#### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	安部 孝・浦 由希子・木許 隆・※橋本 早也佳・※相馬 萌

#### ② 概要

開催日	内容
平成 21 年 4 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績追加認定・学籍異動・平成 21 年度「こども学科 科目履修方法」について</li> <li>・平成 21 年度オリエンテーション配布資料・総合演習の流れについて</li> <li>・他大学で修得した単位の読替について</li> </ul>
4 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎資格及び単位修得証明書の様式について・その他</li> </ul>
4 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度 1 年生クラス分けについて・その他</li> </ul>
4 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会における読み替え科目について</li> <li>・乳幼児保育学科第二部 3 年生の自宅外懇談会参加について・総合演習の流れについて</li> <li>・平成 21 年度 年間予定表・平成 21 年度 前期時間割表</li> <li>・こども学科 2 年生及び乳幼児保育学科第二部 3 年生の保護者会開催について</li> <li>・平成 22 年度学外研修について・「教室使用申請書」書式作成について</li> <li>・「補講申請のお知らせ」について・その他</li> </ul>
4 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習コース決定について</li> </ul>
5 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度 集中講義日程(司書・司書教諭科目及びその他科目)</li> <li>・平成 21 年度前期 通常外での履修学生・平成 21 年度前期 欠席の多い学生調査</li> <li>・平成 21 年度前期 試験実施計画</li> <li>・平成 21 年度前期 試験実施方法アンケート, レポート課題のアンケートについて</li> <li>・平成 21 年度前期 授業評価アンケート実施について</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 20 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメントについて</li> <li>保護者会での質問等の回答について・その他</li> </ul>
6 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年度 集中講義日程(案)</li> <li>平成 21 年度 こども学科 科目履修方法の訂正について</li> <li>平成 21 年度前期 試験時間割表・試験監督上の留意点・試験での留意点</li> <li>平成 21 年度前期試験 受験無資格者の調査について</li> <li>保育実習期間授業実施のアンケート</li> <li>平成 21 年度 後期時間割表・平成 20 年度科目等履修生の継続について</li> <li>機器管理について(ミシン、PC)・保護者会欠席者への対応について・その他</li> </ul>
7 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生のボランティア参加について・「ボランティア実習」授業の流れについて</li> <li>教科に関する科目の変更届新旧対照表・前期試験時間割(訂正)・後期時間割</li> </ul>
7 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年度 後期時間割表(案)</li> <li>集中講義を受けられない学生の対応について(体育大会等)</li> <li>ボランティアについて(あゆみ学園、公欠になるか、実習ノートの検討)</li> <li>教職実践演習について・レクリエーションストラクター資格必修科目について</li> <li>純真祭での授業科目読み替えについて</li> <li>9/4(金)介護等体験(こ 2 小)のオリエンテーションと補講について</li> <li>平成 20 年度科目等履修生の継続について</li> <li>平成 20 年度後期開講の通年科目の授業回数について・その他</li> </ul>
8 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年度前期試験時間割・平成 21 年度後期時間割</li> </ul>
9 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>学籍異動・学納金未納者について・後期履修登録スケジュールについて</li> <li>総合演習 2 単位の説明について・総合演習時の PC 室の利用方法について</li> <li>総合演習 I について・教員免許説明会・純真祭読替希望について</li> <li>定期試験受験無資格者への対応について・同意書未提出者意思確認について</li> <li>学外授業について・在籍証明書について・表現発表会について</li> <li>小学校実習・幼稚園実習期間の授業実施アンケートについて</li> </ul>
9 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目等履修生の読替について</li> </ul>
9 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合演習 I」のクラス分けについて</li> </ul>
10 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績認定・学籍異動・ボランティア実習の承認について</li> <li>純真祭発表による授業振替許可願(案)</li> </ul>
11 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>学籍移動・成績追加認定・資格必修科目不合格者への成績配布方法について</li> <li>学費未納者の成績配布方法・説明について</li> <li>平成 21 年度 純真祭発表による授業振替について・「総合演習 I」羽生市長講和について</li> <li>成績通知書・証明書での読み替え科目の記載について</li> <li>平成 21 年度後期試験実施計画(案)・試験での留意点(案)・試験監督上の留意点・評価表の</li> </ul>

## IX 教授会・委員会等

	<p>表記方法・施設実習に参加する学生の対応について・表現発表会参加希望団体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度年間予定表(案)・教職実践演習カルテ、内容・同意書未提出者</li> <li>・英語コミュニケーションⅡの TOEIC 等利用について</li> <li>・補講等が重なった学生の対応について</li> <li>・平成 21 年度全国保育士養成協議会会長表彰者推薦のお願い・平成 22 年度予算について</li> </ul>
11 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度年間予定表(案)</li> </ul>
12 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度後期試験時間割表(案)、平成 21 年度後期補講及び試験期間に施設実習がかかる学生の対応について・平成 21 年度後期試験受験無資格者調査の実施について</li> <li>・教職実践演習カルテ、内容について・平成 22 年度科目等履修生募集要項(案)について</li> <li>・ボランティア実習について・乳児保育学科第二部の廃止手続きについて</li> <li>・科目不合格の確認及び指導、それにより一括申請ができない学生の報告、及び未納者への資格申請に関する指導について</li> </ul>
12 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則変更について</li> </ul>
平成 22 年 1 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習発表会のアンケート</li> <li>・平成 21 年度全国保育士養成協議会会長表彰者推薦について</li> <li>・平成 22 年度科目名称変更について・平成 21 年度 第 26 回卒業式次第(案)</li> <li>・学納金未納及び卒業が危ぶまれる学生の学位記番号について</li> <li>・ボランティア実習の単位認定スケジュールについて</li> </ul>
1 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度前期時間割</li> </ul>
1 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外研修について・入学式までの流れについて・後期試験無資格者の対応について</li> </ul>
2 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職実践演習カルテ、内容について・介護等体験事前事後指導について</li> <li>・平成 22 年度年間予定表(案)について・平成 22 年度前期時間割表(案)について</li> <li>・平成 22 年度担当科目一覧・平成 22 年度学生便覧について・平成 22 年度入学式について</li> <li>・平成 22 年度オリエンテーション日程(案)について・TOEIC 成績配布について</li> </ul>
2 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年度後期成績認定(卒業年次生/科目等履修生)</li> <li>・平成 21 年度卒業認定及び学位取得認定・平成 21 年度免許・資格取得認定</li> </ul>
3 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目等履修生成績認定</li> </ul>
3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度科目等履修生審査について</li> <li>・平成 21 年度後期成績認定(在学生/科目等履修生)・休学者の動向について</li> <li>・平成 22 年度入学式について・平成 22 年度オリエンテーションについて</li> <li>・補講日程について</li> </ul>
3 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度入学生 既習得単位の認定について</li> </ul>

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度も、月 1 回の定例会議と必要に応じた臨時会議を開催することができた。その中で適切な審議がなされ、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

**(2) 学生委員会****① 構成**

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
井筒 紫乃	木許 隆・青木 万理・安倍 大輔・草信 和世・浦 由希子・※田中 淳一

**② 概要**

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 1 日	・平成 21 年度学生委員会教職員の役割分担 ・クラブ活動 ・売店
4 月 29 日	・スポーツ大会 ・全国私立短期大学体育大会 ・学生アパート ・自転車 ・自宅外懇親会 ・売店 ・自動車通学 ・奨学金 ・豚インフルエンザ対策 ・学生会
6 月 3 日	・学生会費 ・純真祭 ・卒業行事 ・スポーツ大会 ・全国私立短期大学体育大会
7 月 1 日	・学生会予算 ・純真祭予算 ・純真祭の教職員の役割分担 ・消防訓練 ・インフルエンザ対策の消毒 ・不審者対策 ・自転車通学
9 月 2 日	・純真祭 ・防災訓練実施要領 ・学生会予算 ・卒業行事 ・インフルエンザ対策 ・自宅外懇親会 ・リーダー研修会 ・学生アパート ・全国私立短期大学体育大会
9 月 16 日（臨時）	・純真祭 ・指定ジャージ
9 月 30 日	・純真祭 ・学生アパート
10 月 30 日（臨時）	・保護者会 ・純真祭
11 月 4 日	・純真祭 ・売店
12 月 2 日	・純真祭 ・自宅外懇親会
平成 22 年 1 月 6 日	・純真祭 ・指定ジャージ ・学生ロッカー ・学生総会
2 月 3 日	・純真祭

**③ 成果と課題（点検・評価）**

平成 21 年度は、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月 1 回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。また学校行事等について、必要に応じて臨時の委員会を開き、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言える。

また本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行っており大きな問題が起きなかった。電車通学や自転車通学者においては、羽生駅と本学との間の通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学

生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。親元を離れ学生アパートに住んでいる学生はもちろんであるが、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが必要であろう。

学生が中心となって企画・運営される純真祭は、本学の行事の中で最も大規模なイベントである。平成 21 年度も学生の発表や模擬店等に本学の学生のみならず、地域の方々にも来場いただき成功裏に終了した。今後は、より地域の方々に本学を身近に感じてもらえるように、地域の方々にも純真祭に関わっていただけるような方策を考えていきたい。

### (3) 図書委員会

#### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	青木 万里 ・ 浦 由希子・※中村 周

#### ② 概要

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 15 日	・平成 21 年度予算 ・ 図書の選書 ・ 貸出冊数と期間の確認
5 月 20 日	・雑誌の廃棄について ・ 図書の選書 ・ 研究論文集第 2 号の進捗状況
6 月 24 日	・夏季休業中の開館について ・ 図書の選書 ・ ホームページについて
7 月 15 日	・図書の選書 ・ ホームページについて
9 月 9 日	・研究論文集投稿内規の改正の検討 ・ 図書の選書
10 月 30 日	・外国雑誌の購読について（2010 年） ・ 研究論文集第 3 号について
11 月 4 日	・和雑誌の購読について ・ 図書の選書
12 月 10 日	・外国雑誌の購読について（2010 年） ・ 研究論文集第 3 号について
1 月 8 日	・平成 22 年度予算 ・ 図書の選書
2 月 10 日	・学生便覧に掲載する「図書館利用の手引き」について

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

図書委員会は、原則として、今年度より新たに施行された埼玉純真短期大学図書館規程に従って、適宜開催されている。

今年度は、図書館予算が減額傾向にあるなかで、より有効な選書や運用方法を模索しながら、利用者サービスを重視した図書館機能の向上が協議された。



**(4) 実習委員会****① 構成**

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	・井筒 紫乃・青木 万里・安部 孝・安倍 大輔・浦 由希子・草信 和世・褒 珉卿 ・※原田 智鶴

**② 概要**

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 22 日	・委員紹介・幼稚園前後半実習に関する実習事前審査
5 月 20 日	・保育所実習に関する実習事前審査
7 月 15 日	・介護等体験に関する実習事前審査
9 月 9 日	・インフルエンザ対策・実習中の危機管理について ・幼稚園後半実習に関する実習事前審査
11 月 6 日	・施設実習および介護等体験に関する実習事前審査
11 月 13 日	・施設実習巡視について・実習時期の検討について
12 月 11 日	・再実習等に係る学生への対応
平成 22 年 1 月 19 日	・幼稚園前半実習に関する実習事前審査

**③ 成果と課題（点検・評価）**

今年度、保育実習においては、監督官庁の方針により 22 日間の実習期間を分割して実施したが、実習時期の設定には、さらなる工夫が必要であった。また、それぞれの実習の位置づけと実施時期に関しても 2 年間の学生の学びを総合的に考えた上での実施時期の再検討が必要であるとする。

それぞれの実習において学生に対して行われる指導は、分野に特化した内容とともに、どの実習にも共通するものもある。今後は、実習間の横のつながりを大切に、共通化できる部分などを洗い出し、指導に反映させることが必要である。

**(5) 就職委員会****① 構成**

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安部 孝	入江 良英・牛込 彰彦・木許 隆・草信 和世・安倍 大輔・浦 由希子 ※奥貫 慶一郎

## ② 概要

開催日	内 容
平成21年4月16日	・委員会の業務内容・就職等各領域の指導担当・就職ガイダンス
4月30日	・委員会の業務内容・就職等各領域の指導担当・就職ガイダンス
5月21日	・就職ガイダンス・「ホーム・カミング・デイ」の計画
6月18日	・「ホーム・カミング・デイ」の内容・求人の掲示・栃木県幼稚園連合会の就職説明会
7月2日	・群馬県私立幼稚園協会等適性試験の学内相談・夏季休業中の就職相談及び指導体制 ・求人票発送準備・「ホーム・カミング・デイ」進捗状況・就職支援室の整備
9月24日	・就職試験の推薦書・学生の就職活動・就職支援室の支援体制・求人票の管理 ・内定者の確認・就職に関する学内統一見解の作成
10月8日	・人物調書の作成・推薦書の作成・就職先訪問・卒業生による職場紹介（人選）
11月5日	・平成22年度卒業予定者に対するガイダンスの実施・履歴書の作成
平成22年1月14日	・卒業生による職場紹介

## ③ 成果と課題（点検・評価）

委員会運営については、特に実習指導等との関係を生かしながら、学生の進路に関する関心や意識を向上、持続させることができた。就学の継続・安定など、家庭の状況も含め、学生生活の支援をきめ細かに行っていく必要がある。

## (6) 社会人の学び直し委員会

## ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
入江 良英	藤田 利久（学長） ・ 木許 隆 ・ ※佐藤 猛

## ② 概要

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 10 日	・平成 21 年度開催場所・事業の共催、後援・講座講師・募集リーフレット
6 月 16 日	・講座受講生と申込状況・学生アルバイトの活用
11 月 11 日	・講座開講状況・平成 22 年度の取組み・評価委員会対応
12 月 18 日	・講座開講状況まとめ・来年度の取組み・関係機関への学長訪問
平成 22 年 1 月 27 日	・講演集第 2 集・総合報告書・第 2 回評価委員会対応・平成 22 年度の取組み

## ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度の「社会人の学び直し」事業は、地元 3 市教育委員会をはじめ多くの教育機関のご協力のもと、489 名（延べ 800 名）が受講し、多くの成果を残して終了した。

本年度得られた成果は、

- ・ 目標人員を大幅に上回る 489 名が受講
- ・ 受講生の 95.5%が講座に対して、満足あるいはまあまあ満足と回答
- ・ 地元教育委員会との連携の強化
- ・ 関係教育機関との連携の促進
- ・ 「発達障害の理解と支援」の高等学校教員への展開
- ・ 「社会人の学び直し」総合報告書および講演集第 2 集の発刊

などがあげられる。

3年間の「社会人の学び直し」事業は、本学内外に大きな成果と反響を残して終了することになるが、今後この成果をどのようにして継承していくかが課題である。「発達障害」に関して、本学を地域の中核的機能としてどのようにして位置付けていくか、さらに検討が必要である。平成 22 年度から実施される、「羽生市学びあい夢プロジェクト協議会」を活用していくことも視野に入れながら、教員が主体となって次の展開を行っていくことが求められている。

## (7) 編集委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
木許 隆	牛込 彰彦・井筒 紫乃・浦 由希子・※佐藤 猛

### ② 概要

平成 21 年度は、実施していない。

## (8) 入試広報委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	藤田 利久（学長）・井筒 紫乃・安部 孝・安倍 大輔・※濱野 哲也（事務長）・※秋山 知世

### ② 概要

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 4 日	・ 第 1 回オープンキャンパス開催について・オープンキャンパス・公開講座の告知チラシについて・平成 22 年度入学試験用募集要項さくせいについて・指定推薦校について・高校訪問について・学校案内進捗状況について・その他
4 月 29 日	・ 2010 年度入試推薦入学指定校一覧（案）・2010 年度入試高校訪問担当者一覧（案）

## IX 教授会・委員会等

	・第2回オープンキャンパス実施について・その他
6月16日	・AO入試(6月13、14日)実施分の予備面談結果について・第4回オープンキャンパス実施要領(案)について・第4回オープンキャンパスでの「学生からのメッセージ」の実施について・入学金免除規程について・その他
7月12日	・AO入試(7月11、12日)実施分の予備面談結果について・その他
7月22日	・AO入試(7月18日)実施分の予備面談結果について・第5回オープンキャンパス実施要領(案)について・その他
8月8日	・AO入試(8月8日)実施分の予備面談結果について・その他
8月30日	・AO入試(8月29日)実施分の予備面談結果について・その他
9月13日	・AO入試(9月12・13日)実施分の予備面談結果について・2010年度AO入試実施要領(案)・その他
9月19日	・2010年度AO入学試験(I期)合否判定について・AO入試予備面談担当者について・その他
9月26日	・AO入試(9月12・13日)実施分の予備面談結果について・その他
10月10日	・2010年度AO入学試験(I期)合否判定について・その他
10月28日	・埼玉純真短期大学入学金免除規程該当者(2名)について・その他
10月31日	・2010年度指定校推薦入試、推薦(I期)入試合否判定について・プレカレッジ実施日程(案)について・その他
11月18日	・社会人入試・一般入試(I期)入学問題作成者の選出について・2011年度入試日程について・その他
11月20日	・2011年度入試日程(案)について・2011年オープンキャンパス(案)について・その他
12月12日	・AO入試(Ⅲ期)合否判定について・その他
12月19日	・一般推薦、専門・総合学科等推薦入試あ(Ⅱ期)合否判定について・社会人入試(I期)合否判定について・その他
平成22年1月27日	・春の学校見学会について・在学生の入試広報スタッフについて・2011年度用学校案内について・新入生宣誓について・その他
1月30日	・一般入試(I期)合否判定について・その他
2月27日	・一般入試(Ⅱ期)合否判定について・その他
3月10日	・2011年度の入試方法と募集要項の内容確認について・2011年度の入試広報について・その他

## ③ 成果と課題(点検・評価)

大学全入時代となった昨今、全国的に短期大学への進学希望者は益々激減の状況である。入試に関して、本学の取り組みが他大学と比較して、それほど大きな差異はないと感じて

いる。昨年に比べて多少の人数ではあるが入学者数を伸ばせたことは、高校への訪問回数が増えたことやオープンキャンパス・学校見学の際の一人ひとりへの対応が、実を結んだのではないかと思う。短期大学の場合は、どの大学へも入学できる状態である以上、受験生に「この大学へ入りたい！」と早い時期から思わせる戦略が第一条件と考える。

## (9) FD委員会（自己点検・評価委員会、第三者評価委員会を含む）

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
草信 和世	全専任教員・※佐藤 猛

### ② 概要

開催日	内 容
平成 21 年 4 月 22 日	・自己点検・評価報告書（第三者評価）の資料収集について ・埼玉県私立短期大学協会教職員研修について
8 月 17 日	・埼玉県私立短期大学協会教職員研修参加

### ③ 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度は、全学的な組織を構成し、平成 20 年度自己点検・評価報告書（年次報告）・自己点検・評価報告書（第三者評価）・平成 21 年度自己点検・評価報告書（年次報告）の作成を進めた。

FD 活動に関しては、埼玉県私立短期大学協会主催の FD・SD 研修会に参加し、他大学との連携にもとづく FD 活動を行なった。

## X 事務組織

### 1 業務分掌

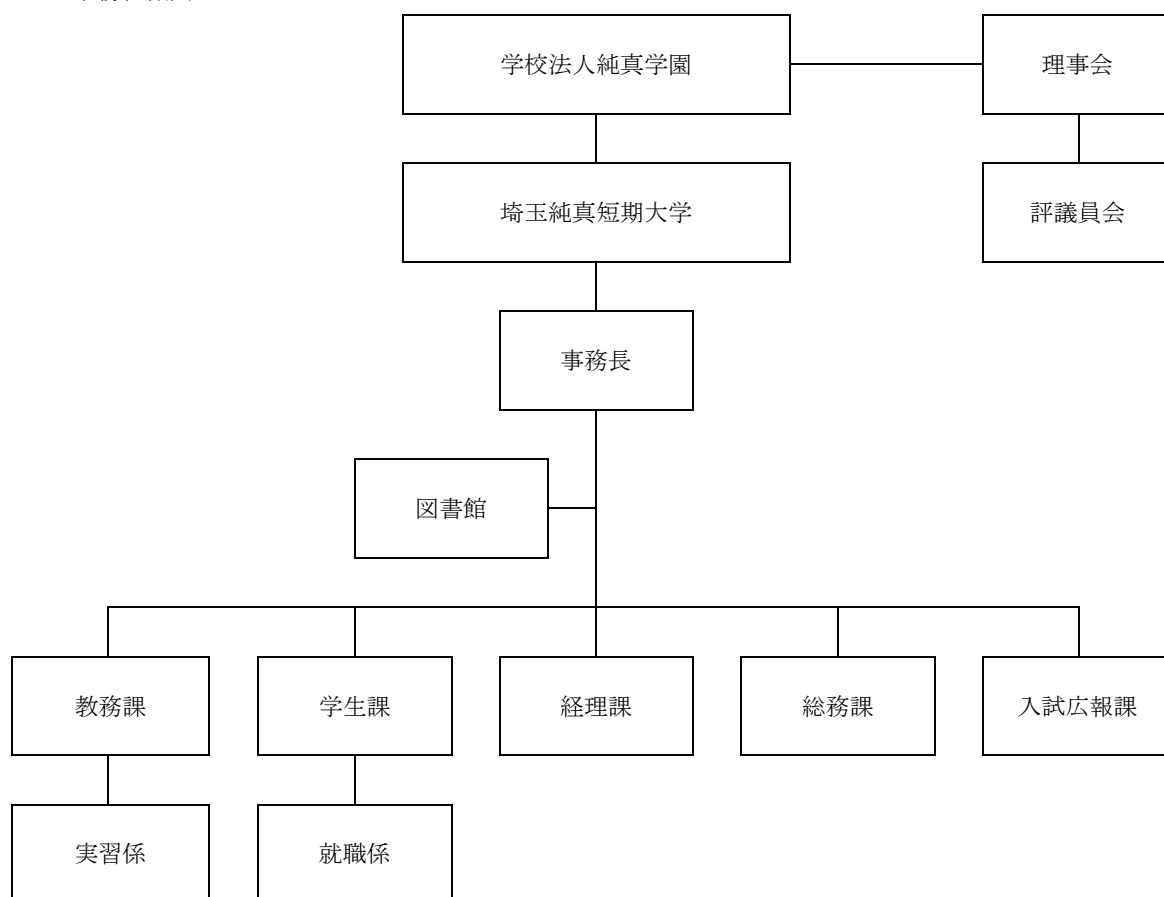
#### (1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多く、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティーを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営されている。

法人本部組織は、従来の法人事務局に加え、平成18年度より新たに理事長室・教育局を新設し、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務課・学生課・経理課・庶務課・入試広報課で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務課には、学生の実習を支援する実習事務職員を配置している。

なお、管財関係の職務は経理課が、人事労務関係の職務は事務長直轄として、経理課・教務課・庶務課がサポートしている。

○ 事務組織図



## (2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 12 名、非常勤職員 1 名の合計 13 名であり、他主要な業務は以下のとおりである。

## ○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学務関連 学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学関関係・学科課程の編成 免許状・資格申請全般 等</li> <li>・教務関連 時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理 各種証明書作成と発行 等</li> <li>・実習関連 実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等</li> </ul>
学生課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生関係 生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き 証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等</li> <li>・厚生関係 ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内 奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談 保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保 学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等</li> <li>・就職関係 求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等</li> </ul>
経理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理関係 納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等</li> <li>・管財関係 校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等</li> </ul>
総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庶務関係 郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等</li> <li>・人事・労務関係 勤怠管理 等</li> </ul>
入試広報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報関係 学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動 資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等</li> <li>・入試関係 入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等</li> </ul>

## 2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織では、上記のような業務を事務長以下13名（内1名の図書館司書パートを含む）の職員によって担っている。文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は最終年度に入り総仕上げの年となった。3年間の報告書を作成し、ご協力をいただいた各教育機関、行政機関などに配布を行った。

また、各職員の業務に対する取り組む姿勢に少しずつではあるが変化が見られるようになり、効率よく業務をこなしていた。

しかし、まだ経験不足は補えていない面もあるが、これからの努力に期待したい。



# X I 財政

## 1 財政の状況

### (1) 消費収支決算の状況

平成 21 年度の帰属収入は、2 億 2,294 万円でした。学生数が減少したことが大きく響き、前年度比 33.5%減となった。

基本金については、総合償却資産である図書を除却額が約 560 万円あったことと設備投資額が約 100 万円程であったため、今期は 339 万円の取崩額を計上した。

一方消費支出は、2 億 7,546 万円（前年度比 7.9%減）となり、差引 5,251 万円の支出超過となった。開設後完成年度以降初めて支出超過となった。

#### ① 消費収入

##### (a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の減少により 8,752 万円の減収となっている。

##### (b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料ですが、昨年度に比べ受験者が増加したことにより、12.5%増えている。

下の推移の通り、平成 22 年度は学生数が若干増加したものの、依然定員充足率が 50%台であるため、学生生徒等納付金及び手数料の増加は見込めない。

○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 20 年 5 月 1 日現在	267
平成 21 年 5 月 1 日現在	175
平成 22 年 5 月 1 日現在	170

##### (c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。平成 20 年度と比べ減額率が 25%下がったため、前年度比 1.91%増となっている。また帰属収入に占める割合は 11.8%である。

##### (d) 資産運用収入

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

## (e) 事業収入・雑収入

その他の雑収入に約 53 万円計上しているが、自動販売機の手数料収入、コピー代等が主な内容である。

○ 平成 21 年度資金収支計算書（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	192,148,000	192,206,000	△ 58,000
授業料収入	113,139,000	113,138,280	720
入学金収入	24,320,000	24,320,000	0
実験実習料収入	0	10,389,720	△ 10,389,720
施設費収入	40,680,000	40,680,000	0
実習費収入	10,331,000	0	10,331,000
図書費収入	3,328,000	3,328,000	0
保健衛生費	350,000	350,000	0
手数料収入	3,524,000	3,401,700	122,300
入学検定料収入	3,150,000	2,970,000	180,000
試験料収入	115,000	142,500	△ 27,500
証明手数料収入	259,000	289,200	△ 30,200
補助金収入	24,465,000	26,297,000	△ 1,832,000
国庫補助金収入	24,465,000	26,297,000	△ 1,832,000
資産運用収入	456,000	466,709	△ 10,709
受取利息・配当金収入	1,000	2,409	△ 1,409
施設設備利用料収入	455,000	464,300	△ 9,300
事業収入	11,000	12,610	△ 1,610
補助活動収入	11,000	12,610	△ 1,610
雑収入	950,000	249,713	700,287
私立大学退職金財団交付金収入	714,000	0	714,000
その他の雑収入	236,000	249,713	△ 13,713
前受金収入	75,240,000	72,836,000	2,404,000
授業料前受金収入	31,825,000	31,825,000	0
入学金前受金収入	28,500,000	26,100,000	2,400,000
実験実習料前受金収入	2,375,000	2,375,000	0
施設費前受金収入	11,400,000	11,400,000	0
保健衛生費前受金収入	190,000	186,000	4,000
図書費前受金収入	950,000	950,000	0
その他の収入	58,946,000	61,107,663	△ 2,161,663

X I 財政

前期末短期未収入金収入	3,289,000	3,289,053	△ 53
預り金受入収入	38,302,000	40,913,043	△ 2,611,043
仮払金収入	9,380,000	8,685,215	694,785
仮受金受入収入	5,000,000	4,330,339	669,661
代理会計預り金受入収入	2,975,000	3,890,013	△ 915,013
資金収入調整勘定	△ 62,769,000	△ 63,259,060	490,060
期末未収入金	0	△ 490,060	490,060
前期末前受金	△ 62,769,000	△ 62,769,000	0
前年度繰越支払資金	837,289,249	837,289,249	0
収入の部合計	1,130,260,249	1,130,607,584	△ 347,335

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	160,177,000	154,739,470	5,437,530
教員人件費支出	100,702,000	95,521,042	5,180,958
職員人件費支出	58,761,000	58,504,728	256,272
退職金支出	714,000	713,700	300
教育研究経費支出	62,249,000	63,374,814	△ 1,125,814
消耗品費支出	5,530,000	5,022,653	507,347
光熱水費支出	7,047,000	7,123,768	△ 76,768
旅費交通費支出	3,319,000	3,011,930	307,070
奨学費支出	1,296,000	1,295,300	700
渉外費支出	624,000	618,929	5,071
通信費支出	1,893,000	2,025,697	△ 132,697
購読料支出	2,853,000	2,257,472	595,528
印刷製本費支出	4,305,000	5,141,708	△ 836,708
修繕費支出	15,862,000	17,244,225	△ 1,382,225
保険料支出	425,000	423,265	1,735
賃借料支出	282,000	522,058	△ 240,058
公租公課支出	69,000	34,500	34,500
負担金支出	877,000	1,097,919	△ 220,919
支払手数料支出	13,962,000	13,777,330	184,670
学校行事費支出	2,022,000	1,455,410	566,590
厚生補導費支出	1,059,000	1,459,496	△ 400,496
図書研究費	650,000	702,199	△ 52,199
雑支出	174,000	160,955	13,045

X I 財政

管理経費支出	25,567,000	26,980,371	△ 1,413,371
消耗品費支出	382,000	324,561	57,439
光熱水費支出	415,000	367,576	47,424
旅費交通費支出	1,792,000	2,106,099	△ 314,099
渉外費支出	6,000	17,960	△ 11,960
通信費支出	371,000	327,631	43,369
印刷製本費支出	346,000	390,075	△ 44,075
修繕費支出	50,000	49,770	230
保険料支出	67,000	55,524	11,476
賃借料支出	14,000	13,934	66
公租公課支出	36,000	34,700	1,300
負担金支出	411,000	410,185	815
支払手数料支出	5,117,000	6,435,404	△ 1,318,404
福利費支出	413,000	388,326	24,674
広報費支出	15,850,000	15,764,330	85,670
私立大学等経常費補助金返還金	172,000	171,000	1,000
過年度修正損	125,000	123,296	1,704
設備関係支出	3,124,000	3,350,219	△ 226,219
教育研究用機器備品支出	1,741,000	1,967,875	△ 226,875
その他の機器備品支出	583,000	582,750	250
図書支出	800,000	799,594	406
その他の支出	67,125,000	68,417,776	△ 1,292,776
前期末未払金支払支出	9,673,000	9,673,028	△ 28
預り金支払支出	38,302,000	40,692,901	△ 2,390,901
前払金支払支出	670,000	1,194,184	△ 524,184
仮払金支払支出	9,380,000	8,943,495	436,505
仮受金支払支出	5,000,000	4,330,339	669,661
代理会計預り金支払支出	4,100,000	3,583,829	516,171
資金支出調整勘定	△ 22,308,000	△ 22,025,372	△ 282,628
期末未払金	△ 21,670,000	△ 21,388,067	△ 281,933
前期末前払金	△ 638,000	△ 637,305	△ 695
次年度繰越支払資金	834,326,249	535,549,609	298,776,640
支出の部合計	1,130,260,249	830,386,887	299,873,362

## ② 消費支出

## (a) 人件費

人件費は、昨年度と比べてほぼ横ばいであった。

また、帰属収入に占める割合は 69.9%となった。昨年度に比べると 23.1%も増加しており、学生数の確保が何よりの最重要課題となっている。

## (b) 教育研究経費

教育研究経費は前年度比 7.6%増加し、帰属収入合計に占める割合は 40.4%で前年度比 15.1%の増加となった。教育研究活動の維持・発展のためには、比率が高いことが望ましいとされているが、消費支出を圧迫している状況の中では、改善の必要がある。

## (c) 管理経費

管理経費は前年と比べ約 3,089 万円減少し、2,940 万円となった。帰属収入に占める割合は 13.1%で前年度比 5.1%の減少となった。学生募集に係わる広報費が約半額を占めているが、学生数確保のため総額を維持しつつより効率的・効果的な募集活動を行うことに知恵を絞らなければならない。

○ 平成 21 年度消費収支計算書 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	192,148,000	192,206,000	△ 58,000
授業料	113,139,000	113,138,280	720
入学金	24,320,000	24,320,000	0
実験実習料	0	10,389,720	△ 10,389,720
施設費	40,680,000	40,680,000	0
実習費	10,331,000	0	10,331,000
図書費	3,328,000	3,328,000	0
保健衛生費	350,000	350,000	0
手数料	3,524,000	3,401,700	122,300
入学検定料	3,150,000	2,970,000	180,000
試験料	115,000	142,500	△ 27,500
証明手数料	259,000	289,200	△ 30,200
寄付金	0	31,500	△ 31,500
現物寄付金	0	31,500	△ 31,500
補助金	24,465,000	26,297,000	△ 1,832,000
国庫補助金	24,465,000	26,297,000	△ 1,832,000
資産運用収入	456,000	466,709	△ 10,709

X I 財政

受取利息・配当金	1,000	2,409	△ 1,409
施設設備利用料	455,000	464,300	△ 9,300
事業収入	11,000	12,610	△ 1,610
補助活動収入	11,000	12,610	△ 1,610
雑収入	950,000	526,966	423,034
私立大学退職金財団交付金収入	714,000	0	714,000
その他の雑収入	236,000	526,966	△ 290,966
帰 属 収 入 合 計	221,554,000	222,942,485	△ 1,388,485
消 費 収 入 の 部 合 計	221,554,000	222,942,485	△ 1,388,485

消 費 支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	161,997,000	155,917,980	6,079,020
教員人件費	100,702,000	95,521,042	5,180,958
職員人件費	58,761,000	58,504,728	256,272
退職給与引当金繰入額	1,820,000	1,713,830	106,170
退職金	714,000	178,380	535,620
教育研究経費	88,710,000	90,130,562	△ 1,420,562
消耗品費	5,530,000	5,054,153	475,847
光熱水費	7,047,000	7,123,768	△ 76,768
旅費交通費	3,319,000	3,011,930	307,070
奨学費	1,296,000	1,295,300	700
渉外費	624,000	618,929	5,071
通信費	1,893,000	2,026,417	△ 133,417
購読料	2,853,000	2,257,472	595,528
印刷製本費	4,305,000	5,141,708	△ 836,708
修繕費	15,862,000	17,244,225	△ 1,382,225
保険料	425,000	423,265	1,735
賃借料	282,000	522,058	△ 240,058
公租公課	69,000	34,500	34,500
負担金	877,000	1,097,919	△ 220,919
支払手数料	13,962,000	13,997,330	△ 35,330
学校行事費	2,022,000	1,455,410	566,590
厚生補導費	1,059,000	1,459,496	△ 400,496
図書研究費	650,000	702,199	△ 52,199
雑費	174,000	160,955	13,045

X I 財政

減価償却額	26,461,000	26,503,528	△ 42,528
管理経費	27,993,000	29,407,025	△ 1,414,025
消耗品費	382,000	324,561	57,439
光熱水費	415,000	367,576	47,424
旅費交通費	1,792,000	2,106,099	△ 314,099
渉外費	6,000	17,960	△ 11,960
通信費	371,000	327,791	43,209
印刷製本費	346,000	390,075	△ 44,075
修繕費	50,000	49,770	230
保険料	67,000	55,524	11,476
賃借料	14,000	13,934	66
公租公課	36,000	34,700	1,300
負担金	411,000	410,185	815
支払手数料	5,117,000	6,435,404	△ 1,318,404
福利費	413,000	388,326	24,674
広報費	15,850,000	15,764,330	85,670
私立大学等経常費補助金返還金	172,000	171,000	1,000
過年度修正損	125,000	123,296	1,704
減価償却額	2,426,000	2,426,494	△ 494
消費支出の部合計	278,700,000	275,455,567	3,244,433
当年度消費支出超過額	57,146,000	52,513,082	4,632,918
前年度繰越消費収入超過額	1,169,397,078	1,279,804,492	△ 110,407,414
基本金取崩額	2,504,472	3,396,920	△ 892,448
翌年度繰越消費収入超過額	1,114,755,550	1,230,688,330	△ 115,932,780

(2) 貸借対照表の現状

平成 21 年度末の資産総額は 15 億 4,421 万円で、うち固定資産が 10 億 563 万円、流動資産が 5 億 3,555 万円となっている。負債総額は 2 億 2,512 万円で、うち固定負債が 1 億 2,590 万円、流動負債が 9,923 万円となっている。また、基本金は前年度比 339 万円減の 17 億 3,480 万円となった。

○ 平成 21 年度貸借対照表（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	1,005,629,722	1,030,936,922	△ 25,307,200
有形固定資産	1,004,784,113	1,030,091,313	△ 25,307,200

X I 財政

土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	554,771,687	576,317,289	△ 21,545,602
構築物	1,623,449	2,222,948	△ 599,499
教育研究用機器備品	7,735,484	8,238,721	△ 503,237
その他の機器備品	3,381,938	3,607,403	△ 225,465
図書	13,345,270	15,463,877	△ 2,118,607
車輛	718,285	1,033,075	△ 314,790
その他の固定資産	845,609	845,609	0
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	203,680	203,680	0
流動資産	538,580,053	842,519,757	△ 303,939,704
現金預金	535,549,609	837,289,249	△ 301,739,640
未収入金	1,394,020	4,193,013	△ 2,798,993
貯藏品	322,240	400,190	△ 77,950
仮払金	120,000	0	120,000
前払金	1,194,184	637,305	556,879
資 産 の 部 合 計	1,544,209,775	1,873,456,679	△ 329,246,904

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	125,895,829	124,717,319	1,178,510
退職給与引当金	125,895,829	124,717,319	1,178,510
流動負債	99,227,813	76,919,448	22,308,365
未払金	21,388,067	9,673,028	11,715,039
前受金	72,836,000	62,769,000	10,067,000
預り金	1,543,893	1,323,751	220,142
代理会計預り金	3,459,853	3,153,669	306,184
負 債 の 部 合 計	225,123,642	201,636,767	23,486,875

資 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,694,804,214	1,698,201,134	△ 3,396,920
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,734,804,214	1,738,201,134	△ 3,396,920
翌年度繰越 消費支出 超過額	415,718,081	66,381,222	349,336,859



消費収支差額の部合計	△ 415,718,081	△ 66,381,222	△ 349,336,859
負債の部、基本金の部	0	0	0
および消費収支差額の部合計	1,544,209,775	1,873,456,679	△ 329,246,904

### (3) 財務比率

ここには、本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率（平成 17 年度～平成 21 年度）

財務比率		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
貸借対照表	固定比率	41.3%	37.1%	54.2%	34.2%	33.9%
	固定長期適合率	39.6%	35.5%	50.9%	32.8%	32.5%
	流動比率	583.0%	867.4%	696.2%	1095.3%	542.8%
消費収支計算書	人件費比率	58.2%	70.7%	43.6%	46.8%	69.9%
	消費支出比率	85.6%	119.2%	77.8%	90.5%	123.6%
	消費収支比率	85.6%	119.2%	78.1%	92.1%	123.6%

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,230,688,330+1,734,804,214=2,965,492,544

#### ① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金（純資産）で賄われているかをみる指標だが、本学では平成 17 年度から平成 21 年度にかけての 5 年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われていて健全であるといえる。

#### ② 固定長期適合率＜固定資産／（自己資金+固定負債）×100＞

固定長期適合率の 5 年間の推移をみると 100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であるといえる。

#### ③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）

流動比率は 1 年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は 1 年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標だが、本学は平成 17 年度から平成 21 年度にかけて優良で信用度が高いとされる流動比率 200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約 80%含まれていることから、

問題はないといえる。

#### ④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）

人件費問題は学校財務の中で最高位を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費にはおよばない。しかも、消費支出の膨張の原因になっている。学校法人のグレードが上がるにつれて、人件費比率は下がり、他の項目が増える傾向になる。私学事業団の実数分析では、短大法人が平成13年度～平成17年度にかけて58.0%～63.0%に範囲にある。本学では、平成21年度の人件費比率は69.9%となっている。前年に比べ、帰属収入が減少したことが大きな要因である。定員充足を上げることにより、改善を図っていかねばならない。

#### ⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入）

消費支出比率は、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

#### ⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）

消費収支比率も、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると支出超過の状態になる。

## 2 成果と課題

平成21年度の入学者数が前年度に比べさらに減少したことが響き、開設後完成年度以降初めて支出超過に転じた。この状況を打開するため、平成21年度末に校舎の修繕に予算を投じ、特に老朽化していた外観に手を加えた。受験生にアピールできるように全体的な外観の向上と設備の充実に注力している。

本学の収支構造を分析した場合、消費収支が均衡するラインは、1学年の学生数120名である。従って何としてでもこの120名確保を最優先課題として、1人でも多くの学生を確保するべく教職員一丸となって知恵を出し合うことが必要である。

もちろん、全国の短期大学の定員割れの比率が上昇する一方の状況の中で学生生徒数を増やすことは容易ではない。昨年同様、就職実績等本学の「強み」を確実にアピールし、「弱み」である設備施設の更新をできる範囲で進め、進学担当者及び志願者に、魅力ある学校として選択して頂く努力を継続して行っていかなければならない。

平成22年度入学者は、昨年より13名増加している。全員一丸となって取り組んだ実績

であり、これを継続して平成 23 年度の学生数の確保につなげていかなければならない。

## X II 同窓会（秋桜会）

### 1 活動状況

#### （1） 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

##### ○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	斉藤 香奈（20回生・児童教育学科）・内田 千絵（24回生・英語コミュニケーション学科）
会計	金谷 佳代（13回生・英語学科）鳥谷部 麻貴子（13回生・英語学科）
書記	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部）
会計監査	佐藤 節子（2回生・児童教育学科）
幹事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	井筒 紫乃（学生部長）

#### （2） 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年3回の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

##### ○ 同窓会の活動状況（平成21年度）

日程	内容
平成21年5月10日 第1回役員会	・会報（秋桜だより）の作成について・会報（秋桜だより）の発送について ・今年度の役員会開催日について・秋桜会25周年記念パーティー開催について
5月23日 臨時役員会	・秋桜会25周年記念パーティー開催について
9月6日 第2回役員会	・秋桜会25周年記念パーティー開催について・終身会費について・総会について
11月1日 臨時役員会	・秋桜会発足25周年記念パーティー開催について

## X II 同窓会（秋桜会）

<p>11月29日 秋桜会発足 25周年記念パーティー 及び第25回総会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋桜会発足25周年記念パーティー開催 特別講演「生かされて今、輝く命」又野亜希子氏</li> <li>・第25回総会 開式の辞 会長あいさつ 定数確認 議案審議（平成20年度会務報告・決算報告・監査報告・平成21年度会務計画・予算案） 新役員あいさつ 閉式の辞</li> </ul>
<p>3月7日 第3回役員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋桜会発足25周年記念パーティー反省・第26回総会開催について</li> <li>・会報（秋桜だより）の発行について・会計について（資金移動関係）・その他</li> </ul>

## 2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも、会長をはじめとした役員を中心として行われている。卒業生のために設立された同窓会ではあるが、そのあり方が卒業生自身にも十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は、同窓会長が入学式や卒業式に列席し、祝辞を述べるなど同窓会の存在をアピールしているところである。

今年、秋桜会発足から25年というひとつの節目の年であった。そこで、1期生～25期生が一堂に会する記念パーティーを開催した。会長をはじめ、少ない役員で立案から活動を計画し、開催に至った。出席者は思いのほか少なかったが、同窓会（秋桜会）の存在・あり方については、多くの卒業生の方へお知らせできたのではないかと思う。

## 執筆者一覧 (50 音順)

### 専任教員

青木 万里 ・ 安部 孝 ・ 安部 大輔 ・ 井筒 紫乃 ・ 入江 良英  
牛込 彰彦 ・ 浦 由希子 ・ 小澤 和恵 ・ 木許 隆 ・ 草信 和世  
高橋 努 ・ 藤田 利久 ・ 斐 珉卿

### 事務職員

秋山 知世 ・ 奥貫慶一郎 ・ 佐藤 猛 ・ 相馬 萌 ・ 田中 淳一  
中村 周 ・ 永田 朗子 ・ 新島 由子 ・ 橋本早也佳 ・ 濱野 哲也  
原田 智鶴

### 法人事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸

平成 22 年度 自己点検・評価委員会

藤田 利久	教授 (学長)
木許 隆	准教授 (自己点検・評価委員長, FD 委員長)
入江 良英	教授
牛込 彰彦	教授 (図書館長, 実習委員長)
安部 孝	准教授 (学生部長)
小澤 和恵	准教授 (教務部長, 入試広報委員長)
濱野 哲也	事務長
佐藤 猛	事務 (総務担当)

平成 21 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 22 年 8 月 31 日

編集 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711 (代)・FAX.048-562-0715



埼玉純真短期大学